2019年3月期　第2四半期
決算説明会

2018年　11月 14日

株式会社ジェイテクト

1. 2019年 3月期　第2四半期業績

2. 2019年 3月期　通期業績予想

3. 中期経営計画の進捗状況

1-1） 連結損益

物量の増・M&Aの効果により増収も、売価水準ダウン・費用増が大きく、減益

(億円)

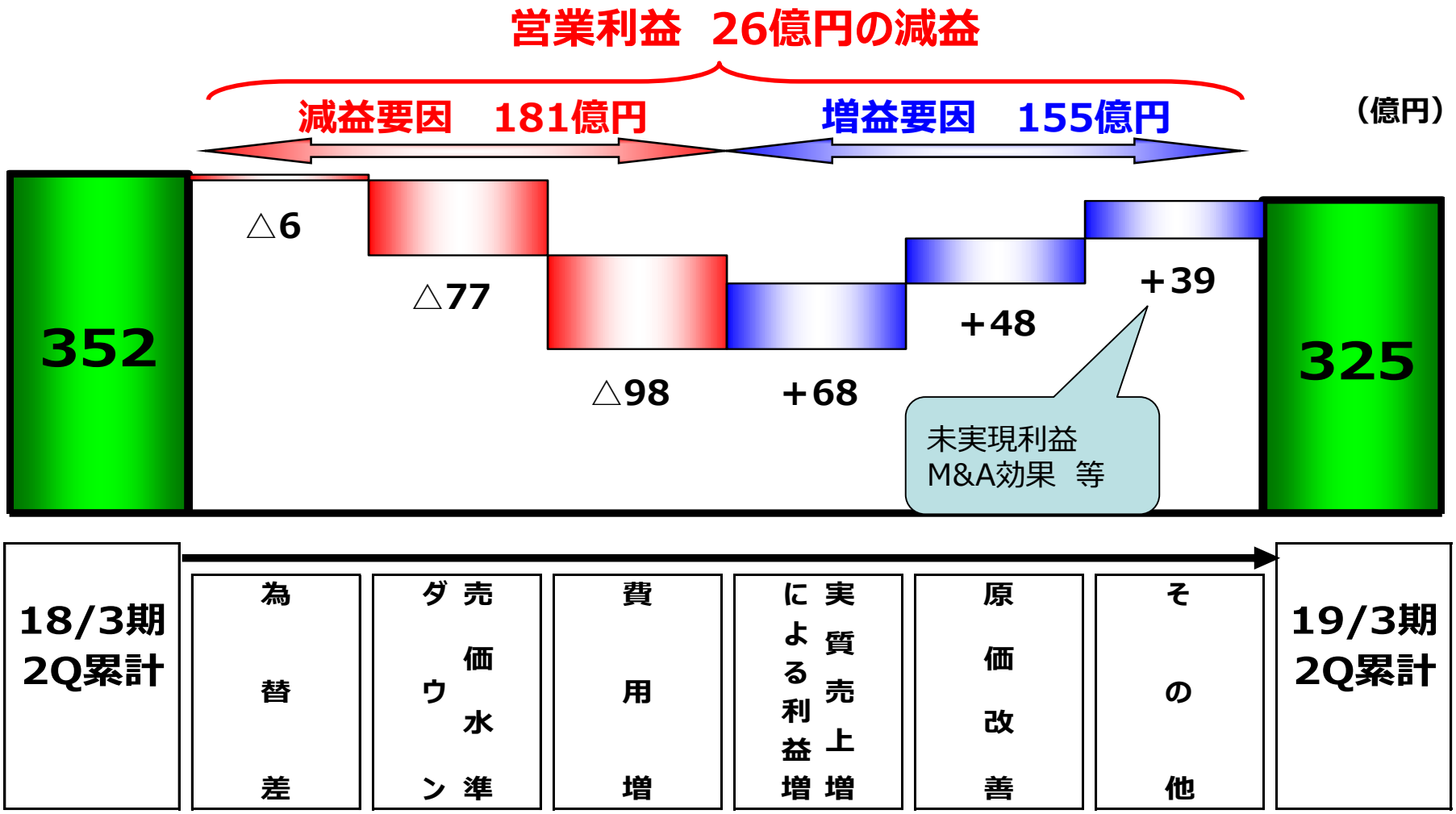
	18/3期 2Q累計	19/3期 2Q累計	増 減 額	増 減 率
売 上 高	6,822	7,429	+ 606	+ 8.9%
営 業 利 益	(5.2%) 352	(4.4%) 325	△ 26	△ 7.5%
経 常 利 益	(5.6%) 379	(4.7%) 347	△ 32	△ 8.5%
親会社株主に帰属する四半期純利益	(4.2%) 286	(2.6%) 190	△ 96	△ 33.6%
為替レート（4月～9月）	111円/USD 126円/EUR	110円/USD 130円/EUR	1円 円高 4円 円安	

(　)は、売上高利益率

		18/3期	19/3期	増 減 額
配 当 金	中 間	21円	22円	+ 1円
	期 末	22円	22円	—

1-2） 営業利益の増減分析

売価水準ダウン・費用増を、増収効果・原価改善でカバーできず



1-3） 事業別業績

機械器具部品
　増収やM&Aの効果があるも、売価水準ダウン・費用増により減益

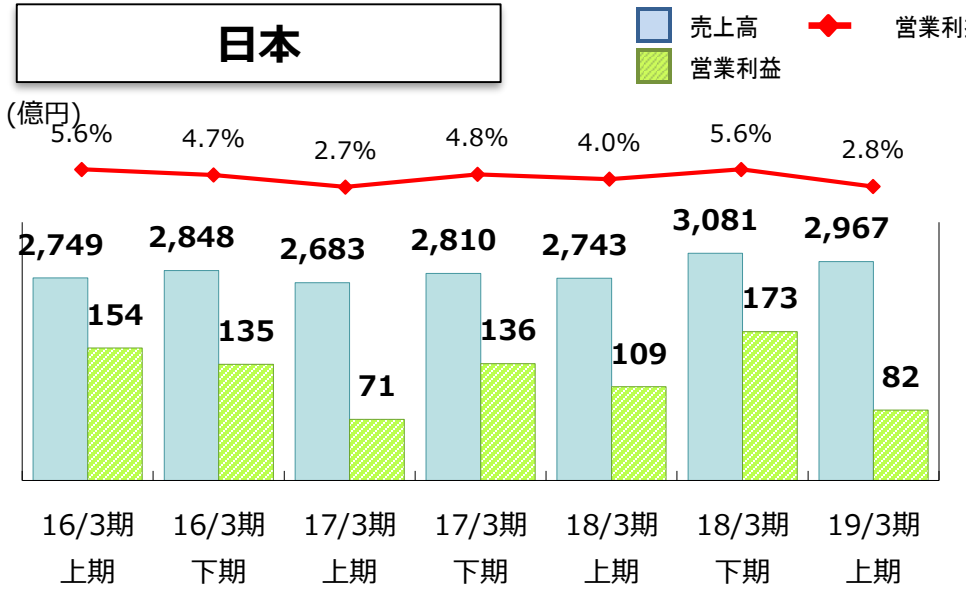
工作機械
　日本・北米を中心に販売堅調で、増収増益

(億円)

		18/3期 2Q累計	**19/3期 2Q累計**	増減額	増減率
機械器具部品	売上高	6,074	**6,580**	+ 505	+ 8.3%
	ステアリング	3,331	**3,698**	+ 367	+ 11.0%
	駆動	694	**769**	+ 75	+ 10.9%
	軸受	2,049	**2,112**	+ 62	+ 3.1%
	営業利益	301	**244**	△ 56	△ 18.8%
	(利益率)	(5.0%)	(3.7%)		
工作機械	売上高	748	**848**	+ 100	+ 13.5%
	工作機械	740	**840**	+ 100	+ 13.5%
	その他	7	**8**	+ 0	+ 10.0%
	営業利益	48	**77**	+ 29	+ 60.2%
	(利益率)	(6.5%)	(9.2%)		

1-4） 法人所在地別業績①

日本



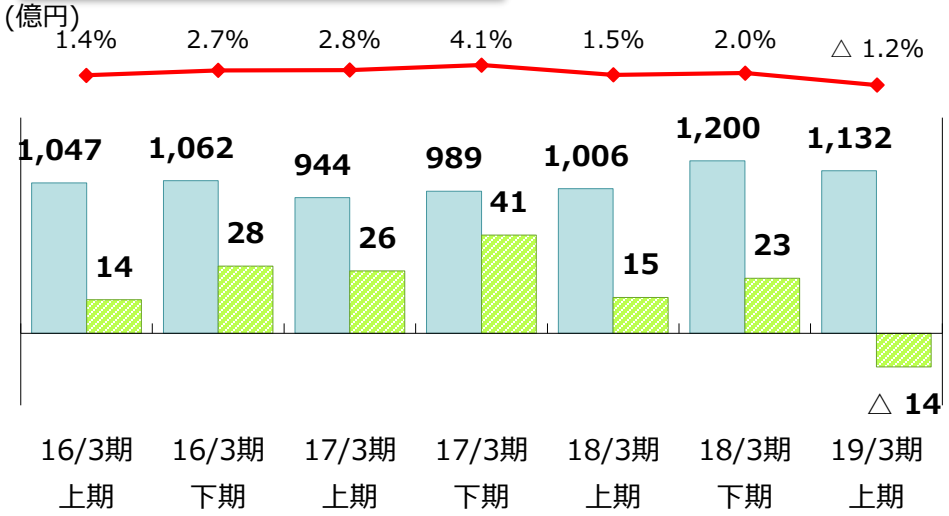
(億円)

	18/3期 2Q累計	19/3期 2Q累計	増減
売　上　高	2,743	2,967	223
営 業 利 益	109	82	△ 26
利　益　率	4.0%	2.8%	—

増収・減益

○M&Aや物量増の効果があるも、労務費・研究開発費等の増により減益

欧州



(億円)

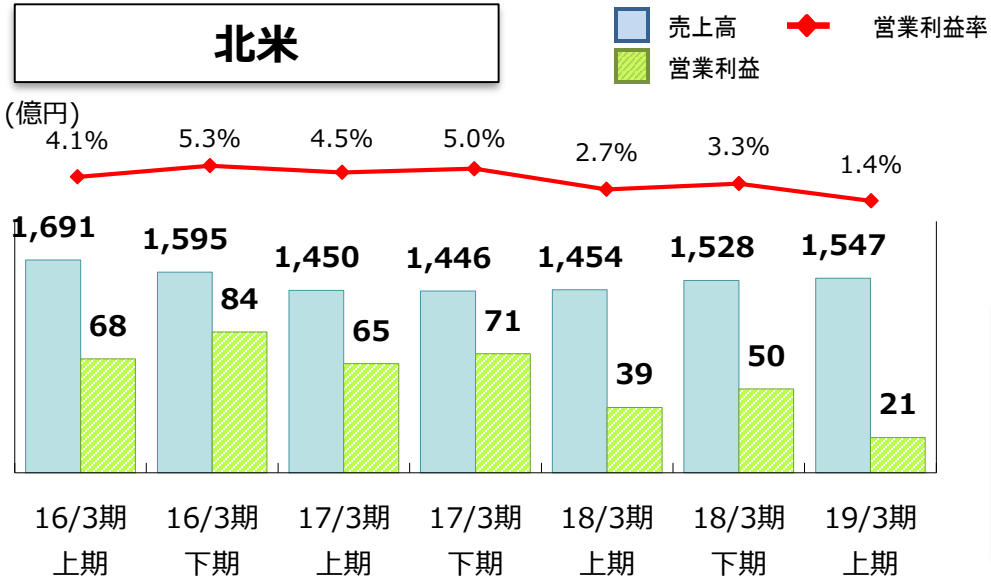
	18/3期 2Q累計	19/3期 2Q累計	増減
売　上　高	1,006	1,132	125
営 業 利 益	15	△ 14	△ 29
利　益　率	1.5%	△ 1.2%	—

増収・減益

○次世代EPSの立上げに伴う費用増や軸受の生産性悪化により減益

1-5） 法人所在地別業績②

北米



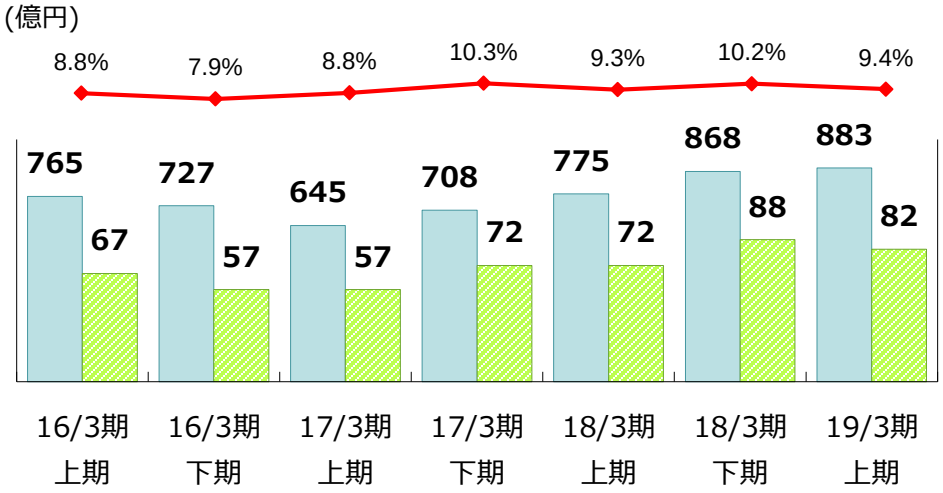
(億円)

	18/3期 2Q累計	19/3期 2Q累計	増減
売　上　高	1,454	1,547	92
営 業 利 益	39	21	△ 17
利　益　率	2.7%	1.4%	—

増収・減益

○次世代EPS立上げに伴う費用増や、駆動・軸受の収益性低下により減益

豪亜(インド含む)



(億円)

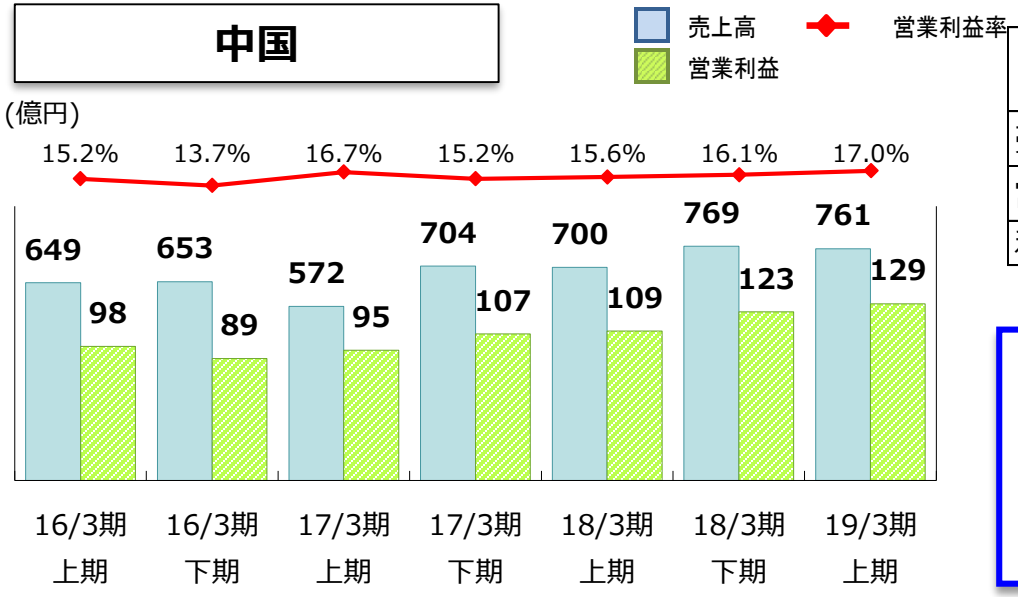
	18/3期 2Q累計	19/3期 2Q累計	増減
売　上　高	775	883	107
営 業 利 益	72	82	10
利　益　率	9.3%	9.4%	—

増収・増益

○M&A効果・物量の増により増収増益

1-6） 法人所在地別業績③

中国



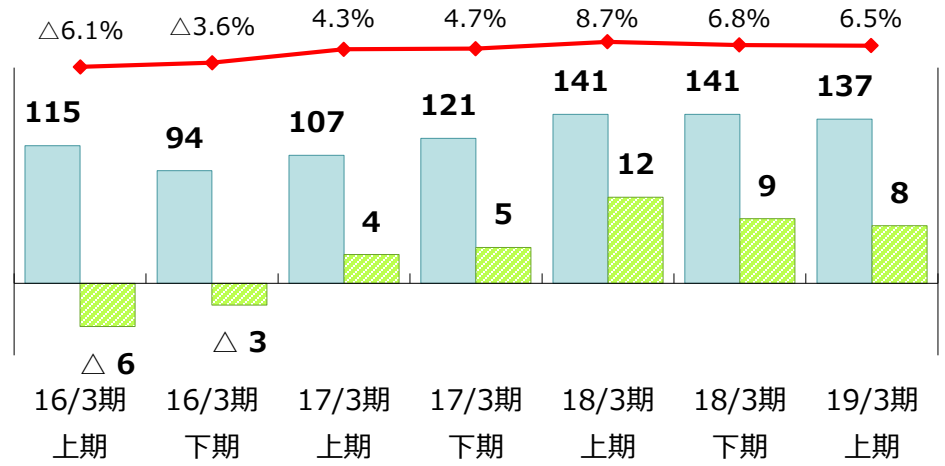
(億円)

	18/3期 2Q累計	19/3期 2Q累計	増減
売　上　高	700	761	60
営 業 利 益	109	129	20
利　益　率	15.6%	17.0%	—

増収・増益

○M&A効果もあり増収増益

南米他



(億円)

	18/3期 2Q累計	19/3期 2Q累計	増減
売　上　高	141	137	△ 4
営 業 利 益	12	8	△ 3
利　益　率	8.7%	6.5%	—

減収・減益

○物量は増加したものの、
為替影響により減収減益

1. 2019年 3月期　第2四半期業績

2. 2019年 3月期　通期業績予想

3. 中期経営計画の進捗状況

2-1） 事業環境の見通し

世界経済

- 金融緩和政策や米国の減税政策により、緩やかな経済成長を維持
- 米国の輸入関税強化や保護主義的政策により、先行き不透明
- 貿易摩擦による中国経済の減速懸念
- 英国の、合意なきEU離脱に対する懸念

日本

- 貿易摩擦の激化に伴い先行き不透明、経営環境の変化を注視

2-2） 2019年3月期　業績予想

為替によるマイナス影響があるものの、M&Aや物量増加の効果、原価改善により増収増益の計画

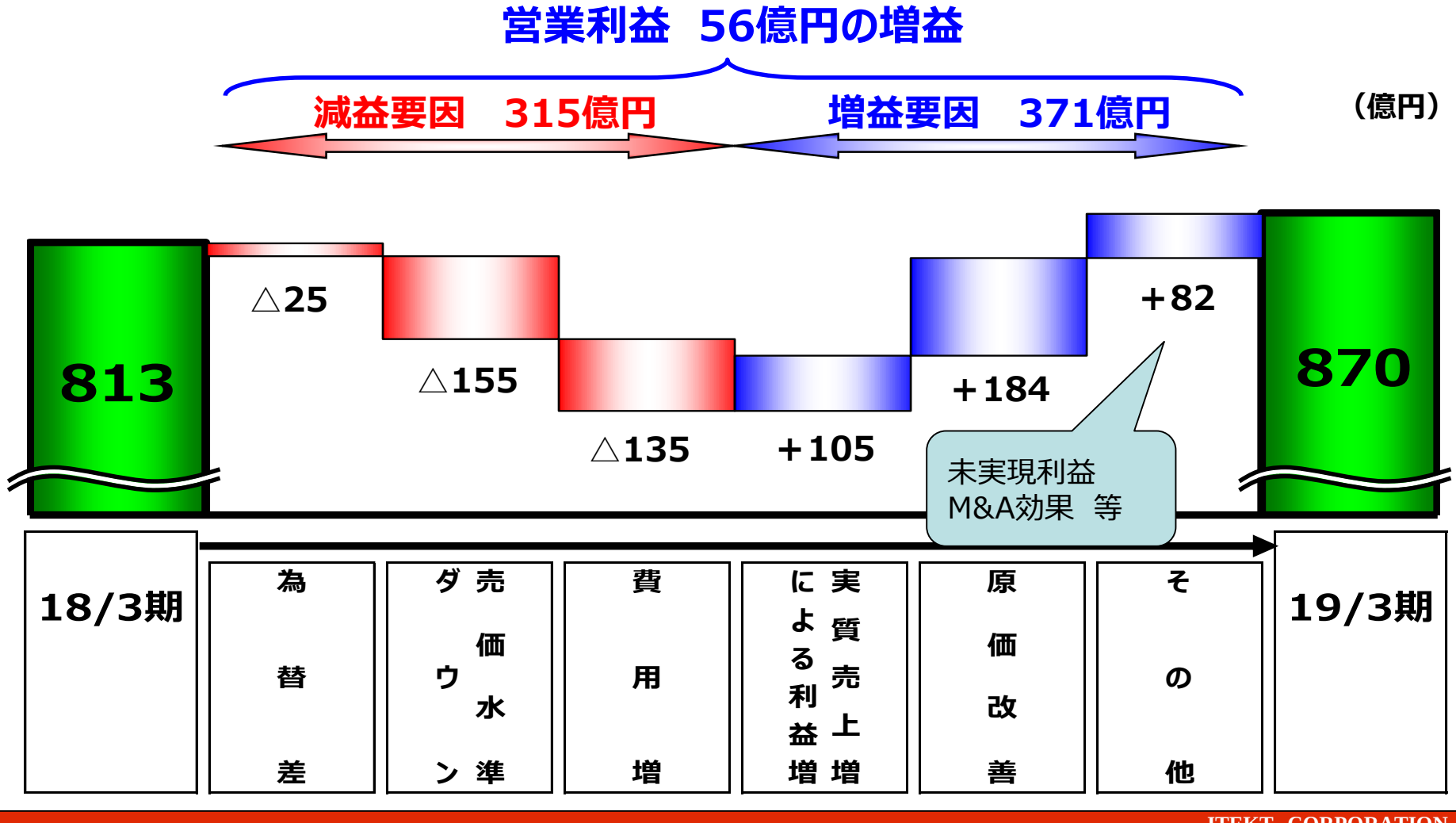
（億円）

	18/3期 通期(実績)	19/3期(予想) 上期(実績)	19/3期(予想) 下期(予想)	19/3期(予想) 通期(予想)	増減額	増減率
売上高	14,411	7,429	7,570	15,000	+ 588	+ 4.1%
営業利益	(5.6%) 813	(4.4%) 325	(7.2%) 544	(5.8%) 870	+ 56	+ 6.9%
経常利益	(5.7%) 825	(4.7%) 347	(6.8%) 512	(5.7%) 860	+ 34	+ 4.2%
親会社株主に帰属する当期純利益	(3.4%) 496	(2.6%) 190	(4.8%) 359	(3.7%) 550	+ 53	+ 10.7%
為替レート（4月～3月）	111円/USD 130円/EUR	110円/USD 130円/EUR	105円/USD 130円/EUR	108円/USD 130円/EUR	3円 円高 —	
設備投資額	666	321	398	720	+ 53	+ 8.0%
減価償却費	604	316	323	640	+ 35	+ 5.9%
配当金	43円	22円	22円	44円	+ 1円	

（　）は、売上高利益率

2-3） 営業利益の増減分析 (前期実績 vs 当期予想)

売価水準ダウン・費用増を、増収効果・原価改善でカバー、M&A効果もあり、増益の計画



1. 2019年 3月期　第2四半期業績

2. 2019年 3月期　通期業績予想

3. 中期経営計画の進捗状況

目 次

1. 中期経営計画における各事業戦略

1) サマリー
2) ステアリング事業
3) 駆動事業
4) 軸受事業
5) 工作機械・メカトロ事業
6) 新規事業の取り組み

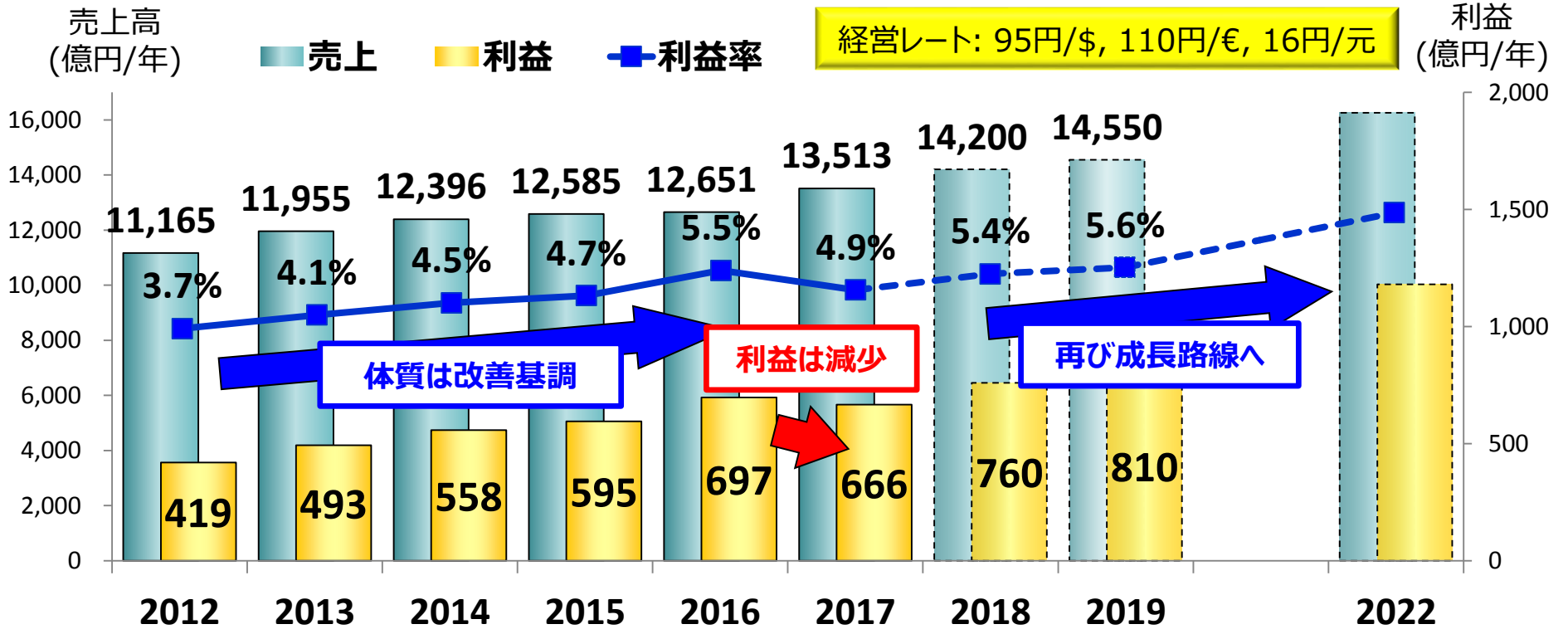
2.企業価値向上に向けた取り組み

1)サマリー

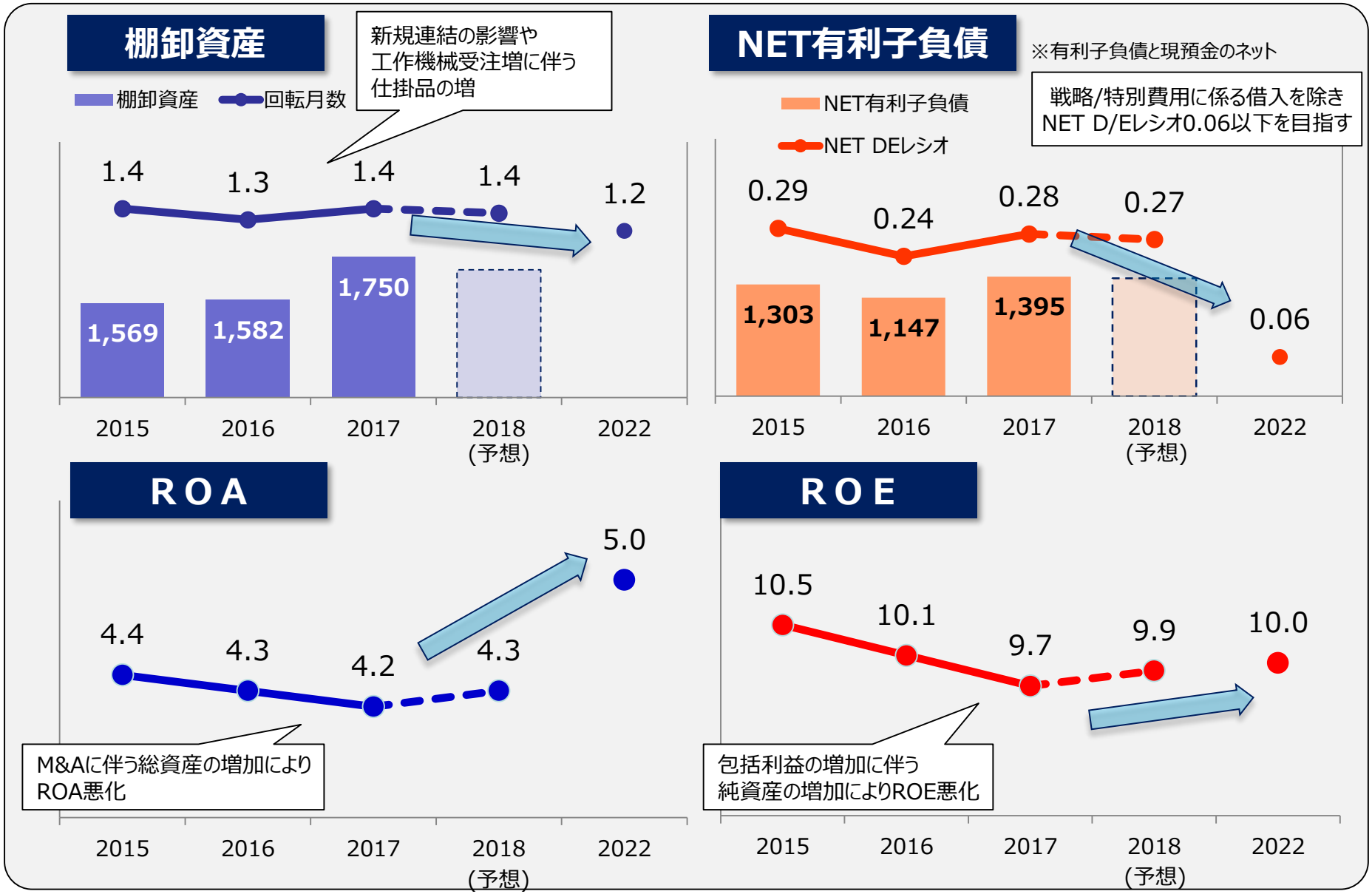
3-1-1） 損益の推移（経営レート）

為替の影響を除くと、16年度まで体質は改善してきたが、
17年度は、①北米での次世代EPS立ち上げ、
②ADAS･IoE等の将来への弾込め費用等により減益

→各事業の生産性向上、次世代EPSの収益改善により、
18年度は16年度レベルに戻し、再び成長路線へ



3-1-1） 経営指標（連結）


棚卸資産
新規連結の影響や
工作機械受注増に伴う
仕掛品の増
棚卸資産
回転月数
1.4
1.3
1.4
1.4
1.2
1,569
1,582
1,750
2015
2016
2017
2018
(予想)
2022
NET有利子負債
※有利子負債と現預金のネット
戦略/特別費用に係る借入を除き
NET D/Eレシオ0.06以下を目指す
NET有利子負債
NET DEレシオ
0.29
0.24
0.28
0.27
0.06
1,303
1,147
1,395
2015
2016
2017
2018
(予想)
2022
ROA
5.0
4.4
4.3
4.2
4.3
M&Aに伴う総資産の増加により
ROA悪化
2015
2016
2017
2018
(予想)
2022
ROE
10.5
10.1
9.7
9.9
10.0
包括利益の増加に伴う
純資産の増加によりROE悪化
2015
2016
2017
2018
(予想)
2022

2)ステアリング事業戦略

3-1-2） ステアリング事業 成長戦略

ステアリングトップシェアを維持し続けるとともにADAS等の
ステアリング先進技術のトップランナーとしてNo.1&Only Oneであり続ける

環境変化

市場/テクノロジーの変化

- ・EPS化の加速(大型車/商用車)
- ・操舵安定性(快適さ)の向上要求
- ・自動運転、安全ニーズの増加

着眼点

- ✓ラックアシストEPS強化
  - –技術の確立
  - –収益力強化
- ✓ADASステアリング強化
- ✓制御開発力の深化

方策

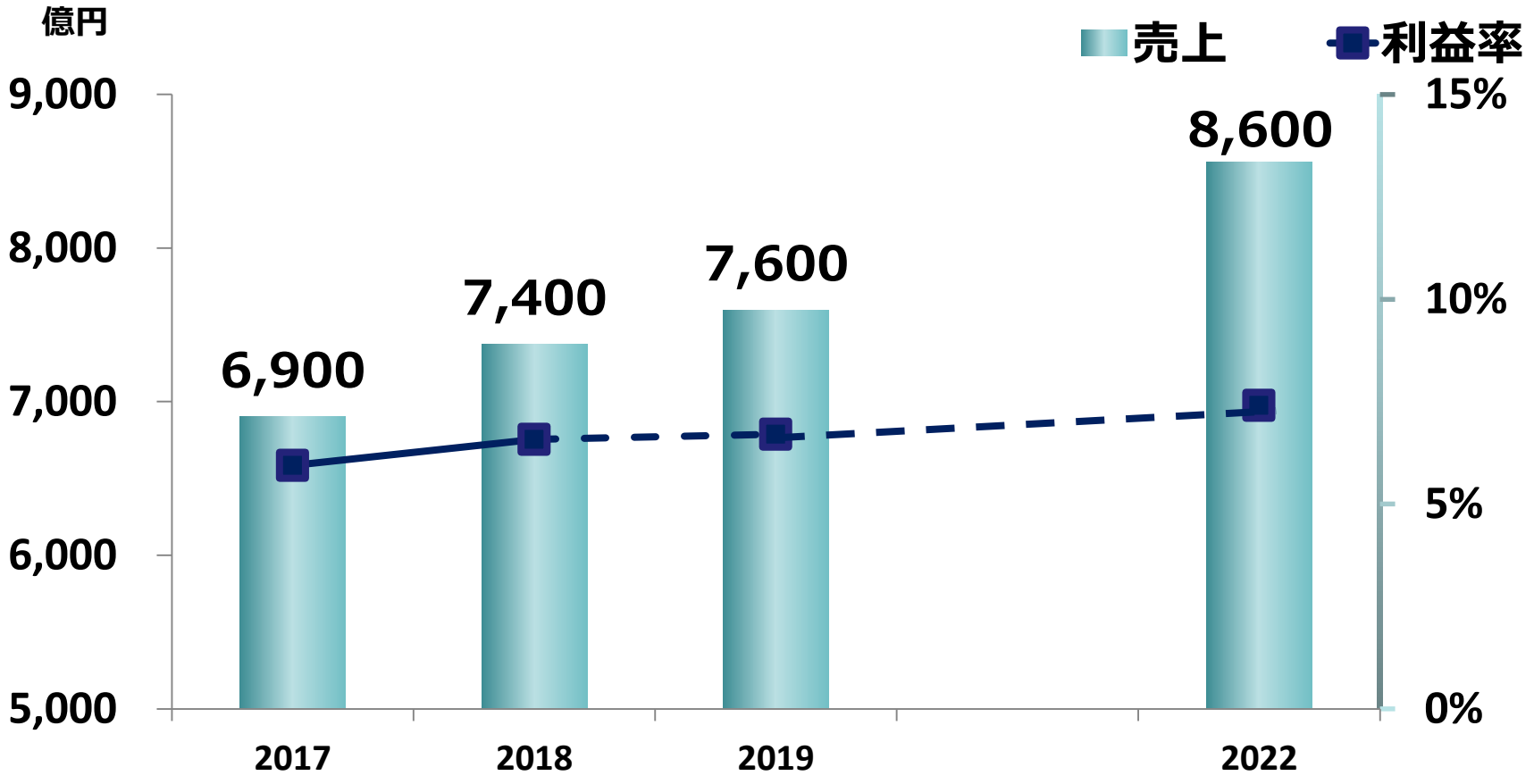
- ラックアシストEPSの確実な立上げと事業拡大
- 未来のクルマ社会への貢献に向けた新技術開発
  - 次世代交通システム
  - 自動運転対応新システム
- 4社協業

3-1-2）ステアリング 中期事業計画の見通し

2018年度通期の売上・利益見通し

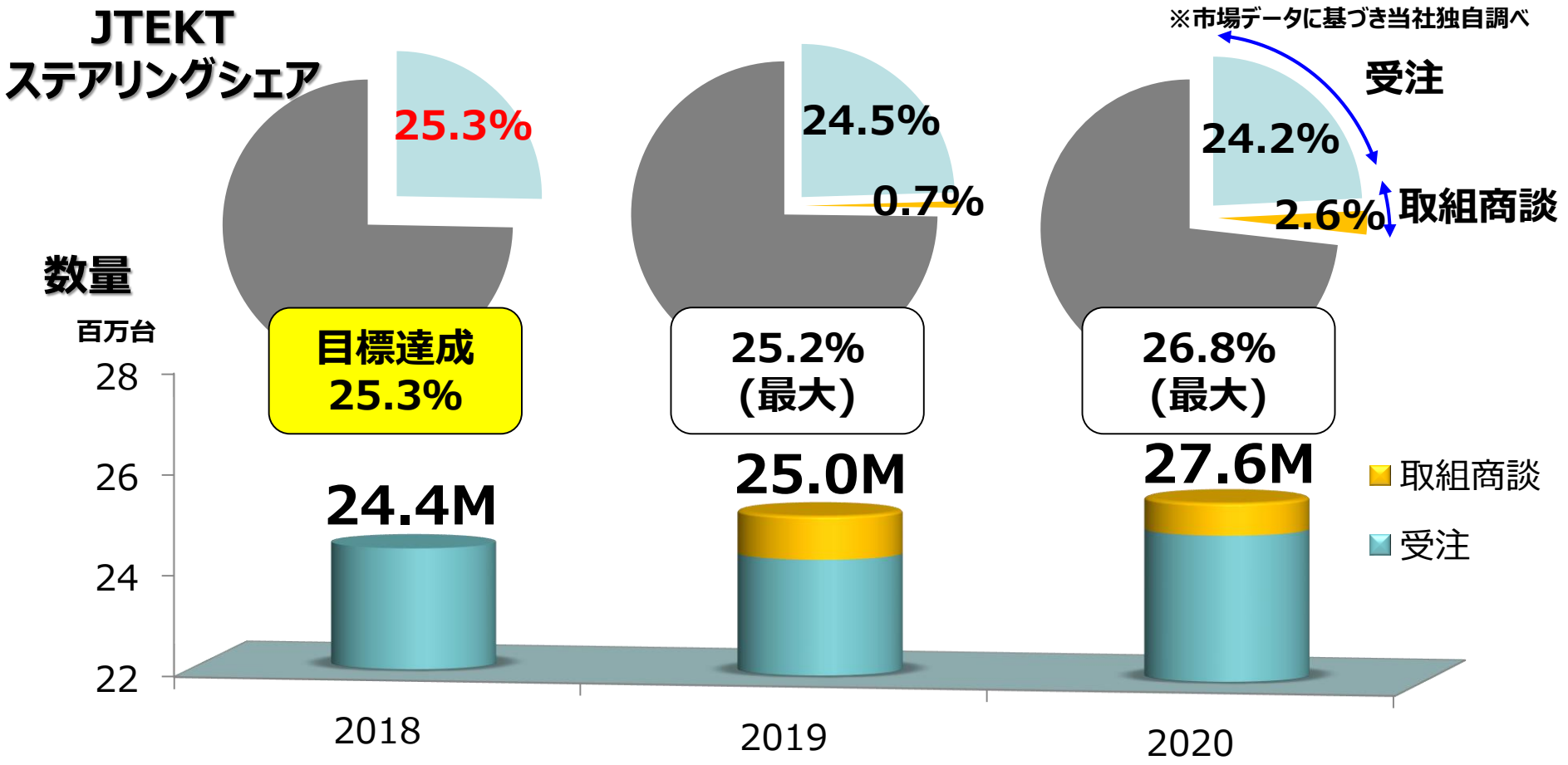
95円/$, 110円/€, 16円/元

上期：ラックアシストEPSの立上げ苦戦により利益計画未達
下期：課題解決にも目途を付け、数量増に伴い利益挽回



3-1-2） JTEKTシェア達成状況

中計目標 “シェア25%”：2018年度 達成



取組商談の多くが2018年度にサプライヤー決定予定
2019年以降、目標シェア達成に向け受注活動を推進中

3-1-2） ラックアシストEPSの強化

ラックアシストEPSの仕事量増加を確実に収益に繋げる

足元固め

プレミアム車両のラックアシストEPS受注

↓

車両での要求性能レベルが想定以上で
生産準備と同時並行で設計変更発生

↓

量産立上げが難航

- 設計固定　18/9　済
- 生産トライ　企画値達成
  18/10確認　済

製品	地域	～'17年	'18年	'19年	'20年	'21年	'22年
DP-EPS	日本				＃1	＃2ライン	
	北米		＃2ライン		＃3ライン		
	欧州		＃3ライン	＃4ライン			
	中国		＃2ライン		＃3ライン	＃4ライン	
RP-EPS	日本					＃3ライン	
	北米					＃3	＃4ライン
	中国			＃1ライン		＃2ライン	

18年⇒22年
生産台数
約2倍

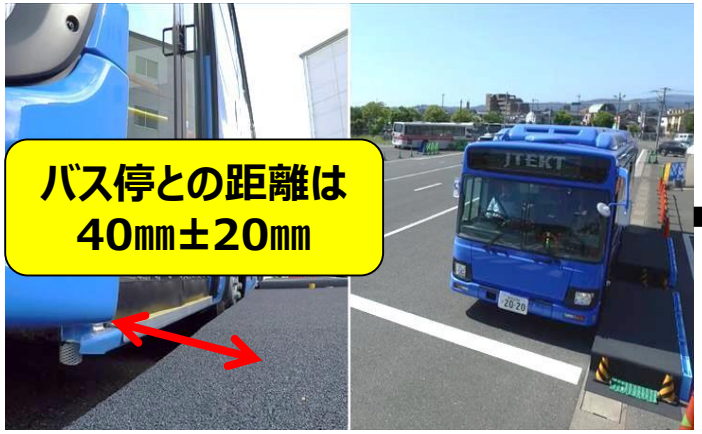
足元固め　仕事量拡大

3-1-2） 次世代交通システム

自動運転制御、正着制御によりすべての人に優しく、使いやすい次世代都市交通社会へ貢献

2018年 5月8日～10日に福岡で開催された、アジア太平洋地域 ITSフォーラムにて自動運転による周回走行および、バス停への正着制御を実施

自動運転による周回走行の様子



バス停への正着制御

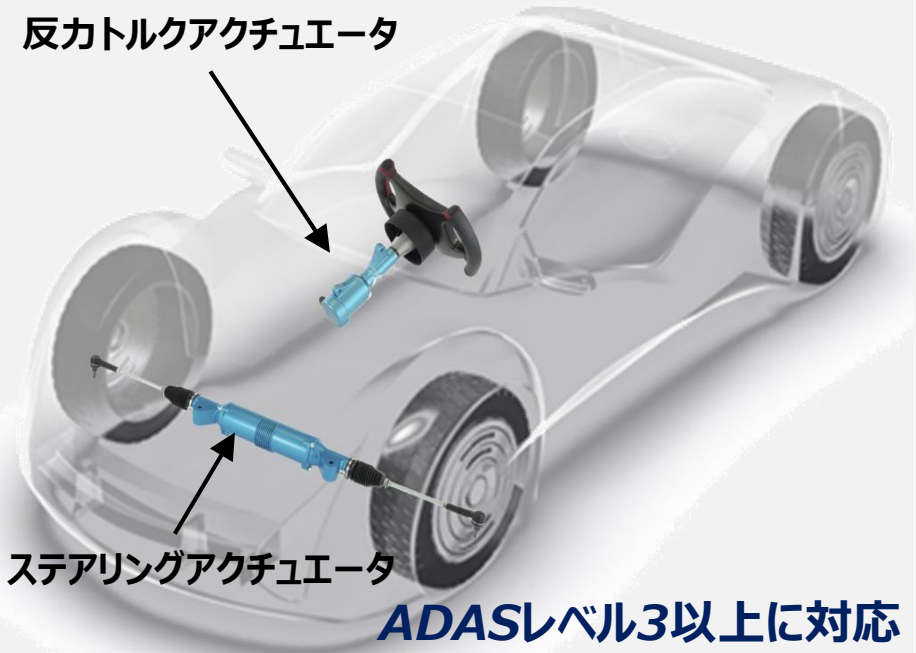
高齢者、車いす、ベビーカー利用者が介助なしでスムーズに乗降

※「本内容は、内閣府が推進する「戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）自動走行システム／大規模実証実験」において、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）より委託を受けて開発中の技術です。」

3-1-2） 自動運転対応新システム

交通事故“ゼロ”社会への貢献

Link-less Steer By Wire



ADASレベル3以上に対応

‘2023年実用化に向け開発中

・自動運転、高度運転支援実現による安心,安全の提供

・快適なドライビングを実現
車両応答性、路面情報のフィードバック自由度向上

・レイアウトフリーで
居住空間拡大に貢献

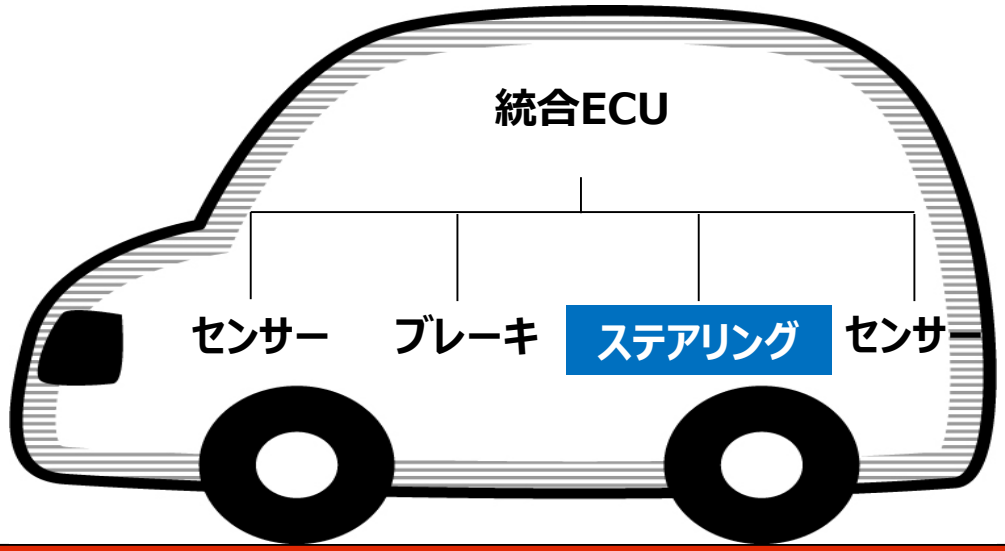
3-1-2）　4社協業

誰もが安心・安全に移動できる自動運転の実現に貢献

車両を上手に曲げる → 安心 安全

タイヤを曲げる

4社の知見を結集し、
より高度な自動運転の実現



自動運転用
ソフト開発会社
設立に合意

※'19年3月設立予定

制御ソフト

出資比率

DENSO	65%
AISIN	25%
ADVICS	5%
JTEKT	5%

3)駆動事業戦略

3-1-3）駆動事業　成長戦略

AWDや油圧などの強みを活かした特徴あるシステムサプライヤとして
駆動事業におけるNo.1&Only Oneを目指す

環境変化

市場の変化

- 新興国市場の成長
- グローバル商談化
- システム提案力の要求

テクノロジーの進化

- 電動化、自動運転化、ＡＩ進化
- 環境対応技術

着眼点

- ドライブライン製品の競争力向上で新興国市場を拡販
- 油圧システム技術でEVモーター冷却・新トランスミッション潤滑に対応
- 4WD車のシステム開発力でコンベンショナル製品から電動化まで対応

方策

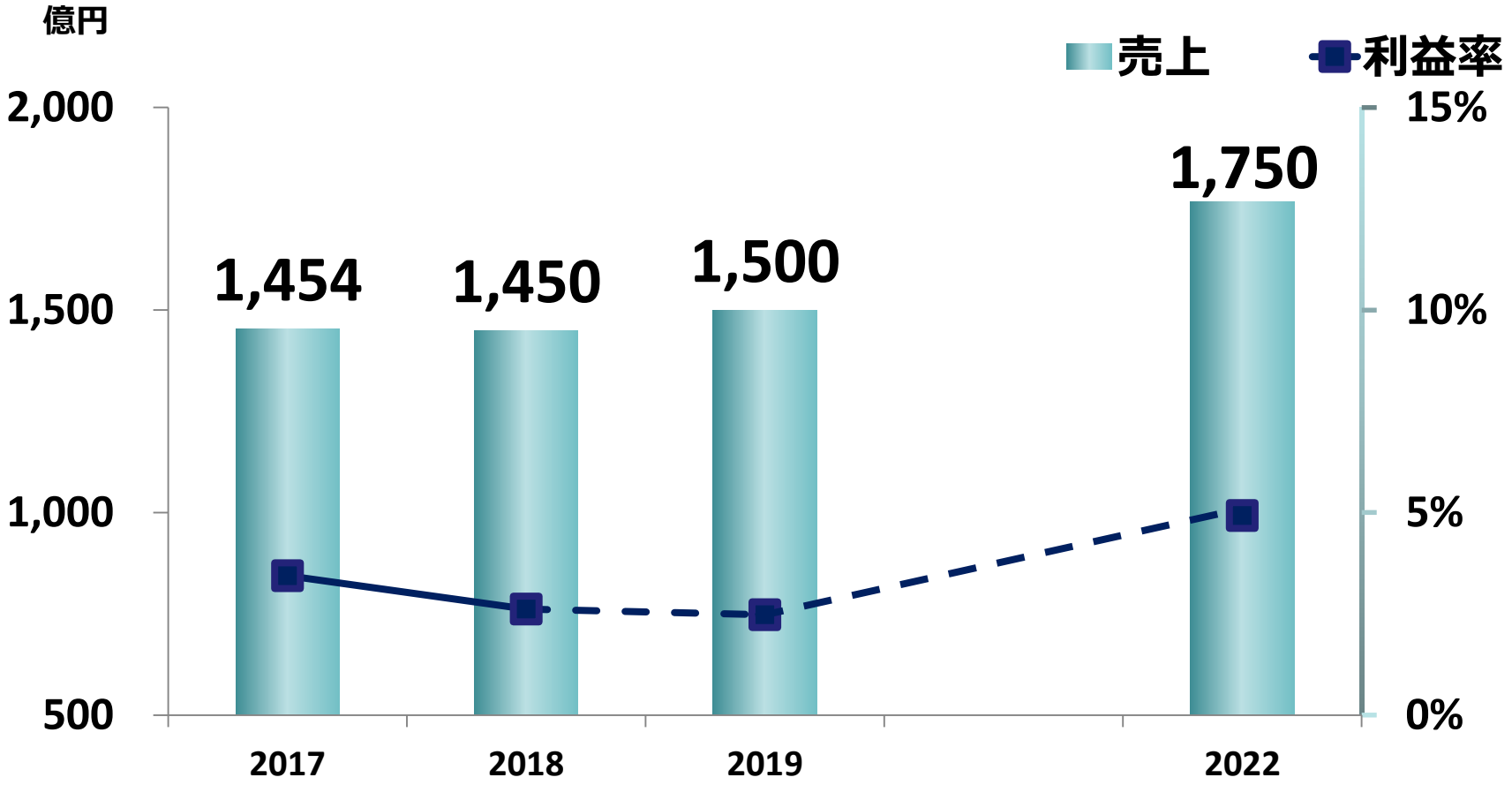
- ドライブライン領域の深化
- 油圧システム強化
- ＡＷＤシステム対応

3-1-3）駆動事業 中期事業計画の見通し

2018年度通期の売上･利益見通し

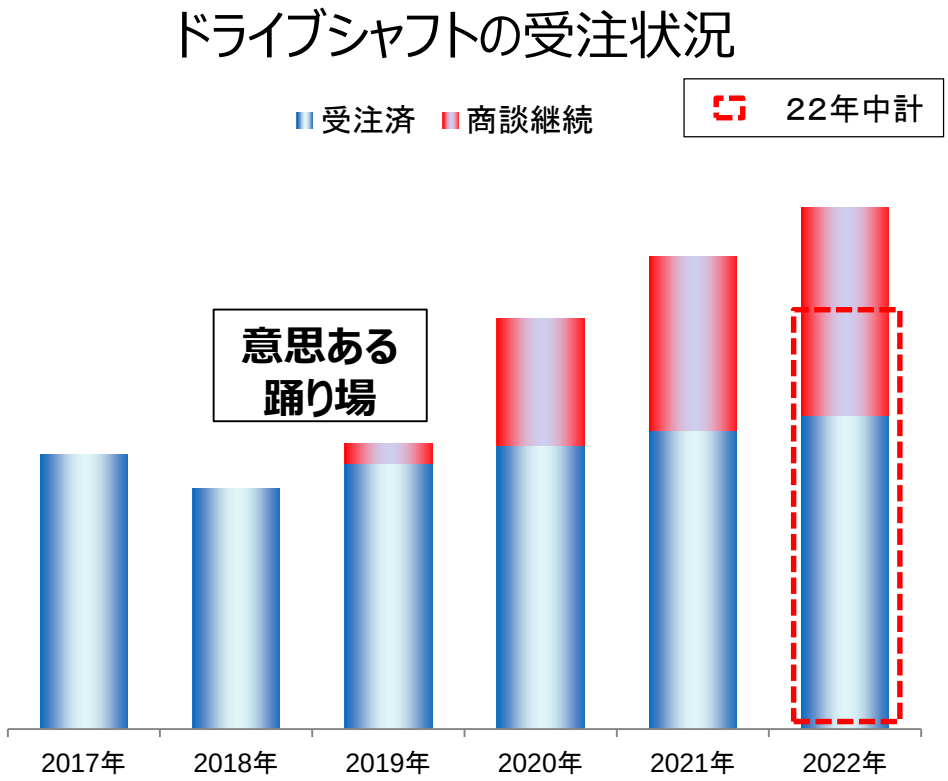
95円/$, 110円/€, 16円/元

上期：販売が好調で売上計画を達成する見込み
下期：更なる上積みを目指す



3-1-3）ドライブライン領域の深化

意思ある踊り場を経て、受注は右肩上がり
電動化の需要を取り込み更なる成長を見据える

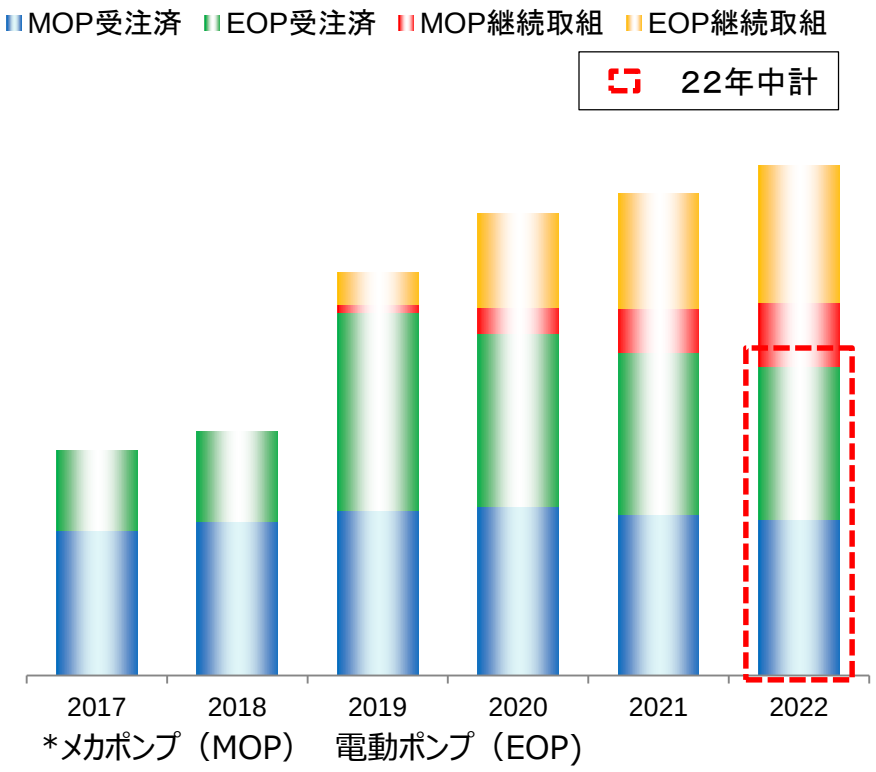


- 中計を上回るペースで受注
- 更なる成長に向けた基盤強化
  - ラインナップ拡充
  - 電動モーターへの対応
    （剛性最適化・低振動）
- 需要の高い地域を中心とした最適なグローバル生産体制を充実

3-1-3）油圧システム強化

強みを活かし電動化・省エネルギーでの用途拡大を狙う
電動ポンプはEV向け新製品を受注し現地生産を予定

メカポンプと電動ポンプの受注状況



- 中計を上回るペースで受注
- 油圧への知見を活かしアクチュエーター・潤滑の両領域を進化
  ⇒電動化・省エネルギーでの用途拡大

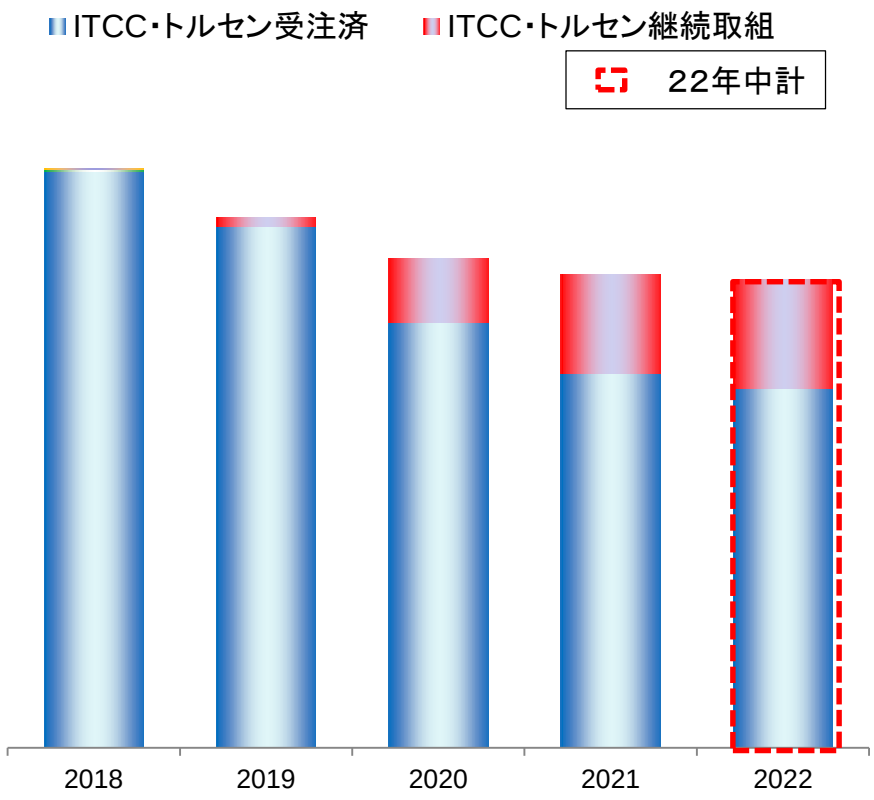
EVモーター冷却用EOPを初受注
＊2020年11月に欧州生産開始

- グローバル生産対応を推進

3-1-3） AWDシステム強化

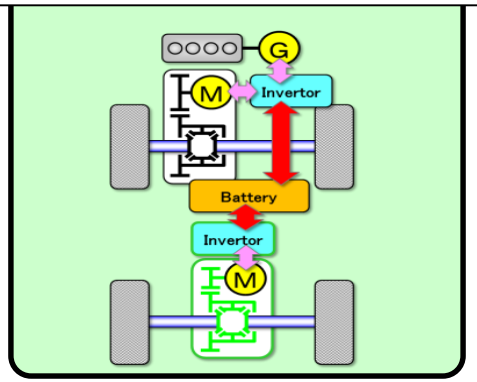
電動化を見据えたE-AWDシステムの実用化を目途付け
引き続き需要のある従来システム改良との両面で対応

ITCCとトルセンの受注状況



- 中計は北米の減少を織り込み減少傾向だが、日本を中心に受注継続
- 23年以降に向け、コンベの拡販に加えモーター駆動技術開発取り組み

E-AWD（モーター駆動）



4)軸受事業戦略

3-1-4）軸受事業　成長戦略

継続して価値を創造し、お客様へ感動を与え賞賛される事業
～Ｋｏｙｏブランドを世界のTOPブランドへ～

環境変化

- 市場競争激化
- テクノロジーの進化
- 競争土壌の変化

着眼点

足元固めと新商品の弾込め

- 生産能力・生産性向上
- 現場力向上
- 新商品開発

方策

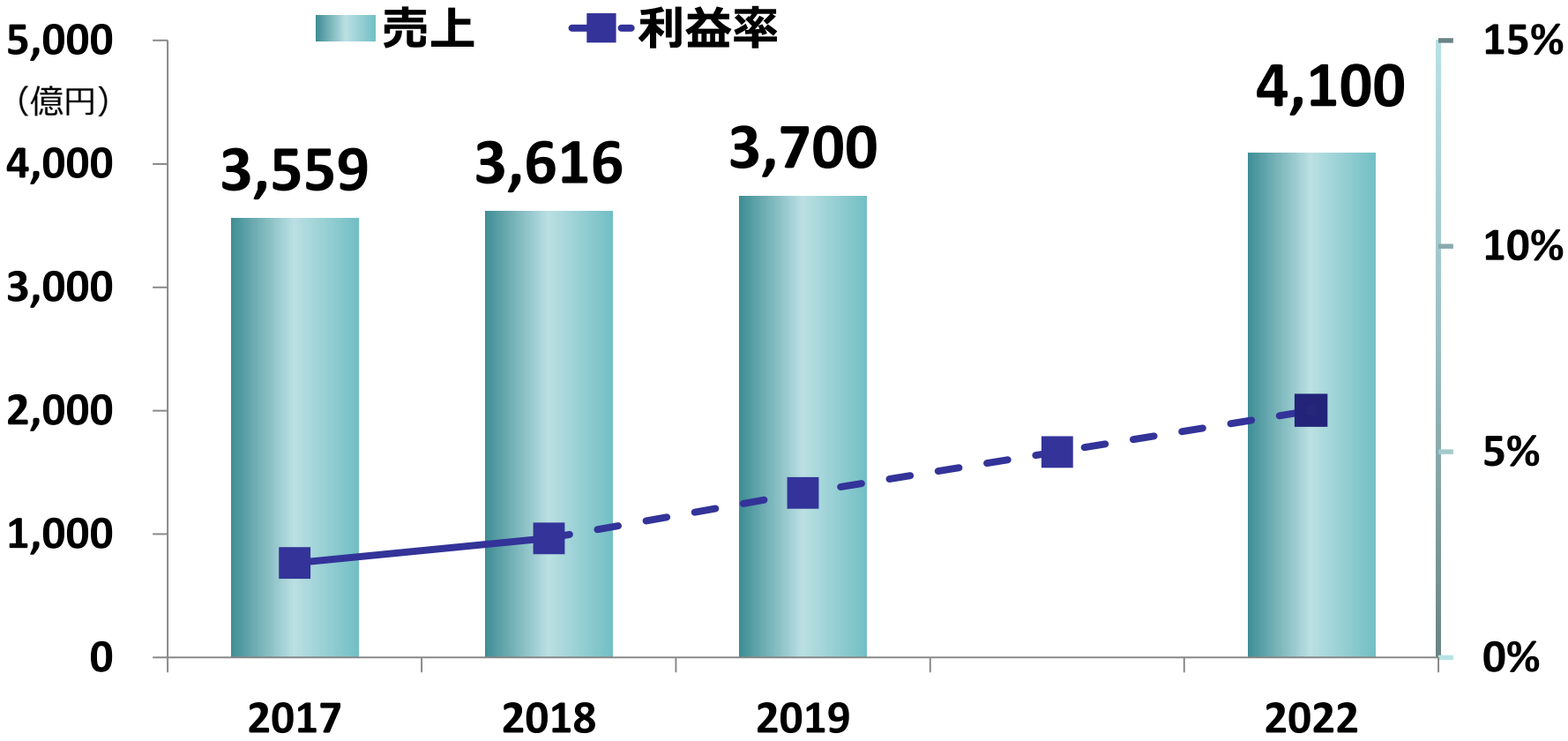
- オペレーションのレベルアップ 無人化／自動化
- 新商品開発

3-1-4）軸受 中期事業計画の見通し

売上・利益見通し

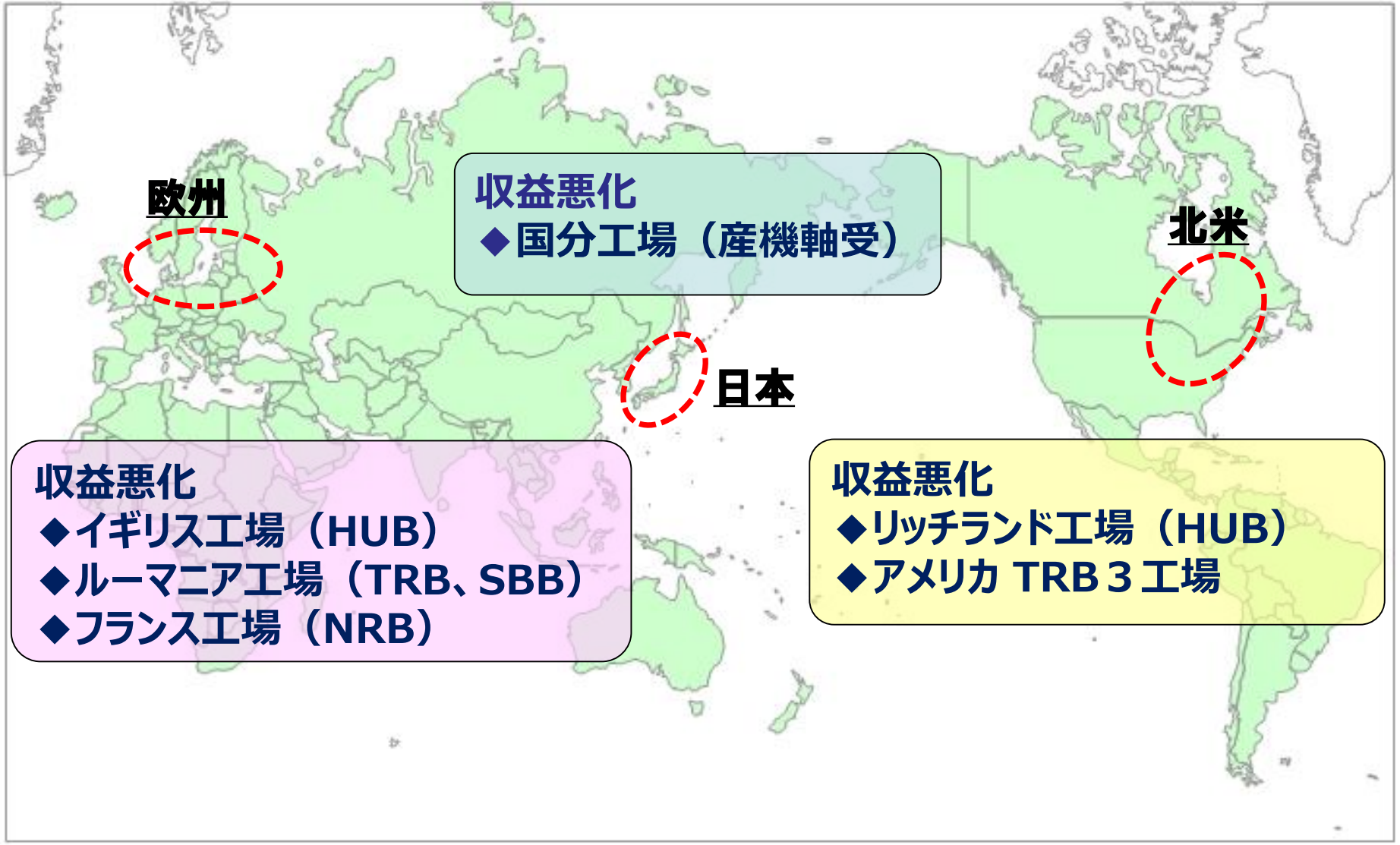
95円/$, 110円/€, 16円/元

上期：生産性悪化、直材価格上昇、工場再編費用増により利益計画未達
下期：つくり改善としくみづくりで生産性向上し見直し利益計画で挽回



3-1-4）地域別課題

日･米･欧　収益悪化の課題



3-1-4）地域別課題

日・米・欧　収益悪化の課題と対応

地域	主な課題	課題への対応
日本	◆収益対策の推進 国分工場（産機軸受） 収益悪化、生産性悪化、経費増	・つくり改善としくみづくりにより2020年3月 黒字化を目指す
北米	◆構造改革の推進 リッチランド工場（HUB） 生産性向上、鋼材関税 アメリカ TRB ３工場 量の確保とｺｽﾄ低減、鋼材関税	・フロアマネジメント強化 ・直材の外製化、拠点別生産計画見直し
欧州	◆構造改革の推進 イギリス工場（HUB） 生産性が悪化 ルーマニア工場（TRB、SBB） 離職率、労務費の悪化 フランス工場（NRB） 再編後、生産性が悪化	・フロアマネジメント強化 ・直材コスト低減 ・処遇見直し、後継者育成 ・現場力強化、欧州域内の人材活用、教育

3-1-4）生産力強化

全拠点共通の生産及び収益性向上の具体的な取組み

足元固め

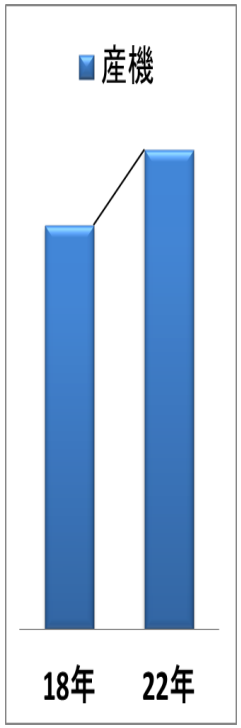
項目	具体的対応	品種	対象地域					
			日本	北米	欧州	インド	中国	アセアン
現場力強化	◇フロアマネジメント（TQM再教育）	ー	○	○	○	○	○	○
	◇老旧化設備の更新	ー	○	○	○	○	○	○
生産性/生産能力向上	◇能力向上 ・高速ライン化・小ロット生産対応	TRB SBB	○ ○	○ ○	○ ○	ー ー	ー ー	ー ー
	◇能力増強	TRB HUB	ー ー	ー ー	○ ー	○ ○	○ ○	○ ○
	◇協業・第２ソース活用	TRB SBB HUB	ー ー ー	ー ー ー	ー ー ー	ー ー ー	○ ○ ○	ー ー ー
	◇加工～組立　一貫工程構築	HUB	○	ー	ー	ー	ー	ー
無人化/自動化	◇１H無人稼動モデルラインの展開 ・自動外観検査機、材料、梱包作業	SBB TRB HUB	○ ○ ○	ー ○ ー	ー ー ー	ー ー ー	ー ー ー	ー ー ー

3-1-4）新商品開発 ①

新商品開発（産機用軸受：使用環境の多様化に対応）

弾込め

◆産機用売上

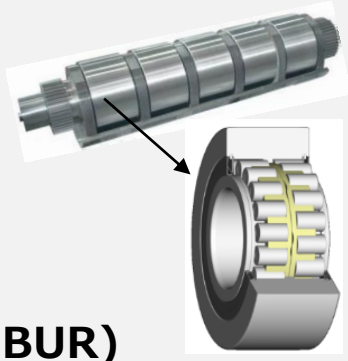


約25%伸長

◆鉄鋼

・高密封、高耐久

【用途】
・多段圧延機用
バックアップロール(BUR)



BUR用軸受

◆特殊環境

・腐食環境での
高耐久性

【用途】
・半導体製造装置
・FPD製造装置

高耐食軸受

◆流体機器

・潤滑性向上

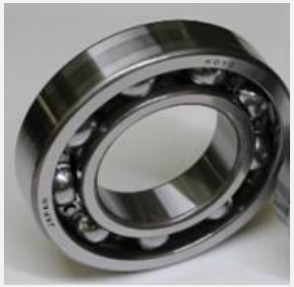
【用途】
・油圧機器
・コンプレッサー

PPS保持器付き
円筒ころ軸受

◆超高性能

・超精密、静粛性

【用途】
・工作機械
・宇宙機器



3-1-4）新商品開発 ②

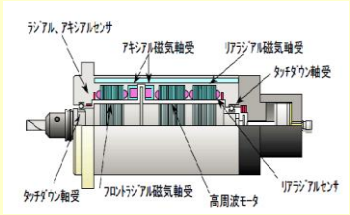
新商品開発への取組み例　2030年売上の10%へ

弾込め

◆制御型磁気軸受ユニット

商品：地下資源、水の浄化など装置の
回転部冷却装置の支持、メンテンスフリー

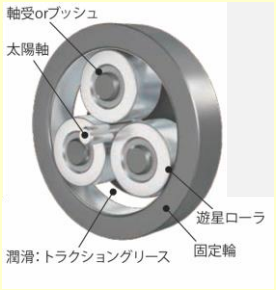
取組み：2019年度～販売開始予定



◆トラクションドライブ

商品：印刷機ユニット、ロボットなどの
精密減速機ユニット

取組み：他用途への展開検討中

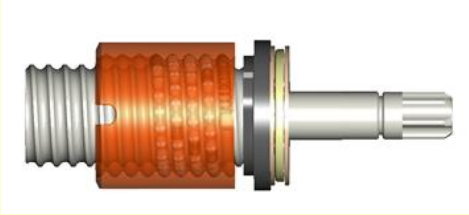


◆電動ブレーキ用アクチュエーター

商品：HEV･PHEV･EV用
ﾌﾞﾚｰｷｱｸﾁｭｴｰﾀｰ

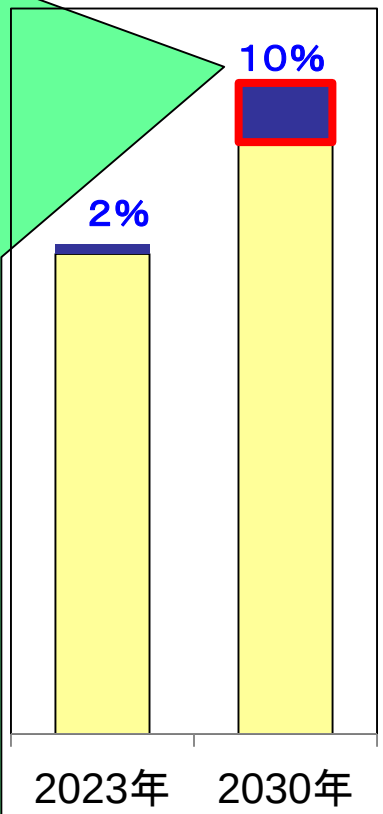
取組み：2022年度～　販売開始予定

ボールねじ　スラストNRB



<ボールねじアッシー構造>

◆新商品売上



5)工作機械･メカトロ事業戦略

3-1-5）工作機械・メカトロ事業　成長戦略

モノづくりすべてのフェーズでバリューを提供

環境変化

市場/テクノロジーの進化

- ・モビリティの変化
- ・労働人口の減少
- ・コスト競争激化

- ・加工技術の進化
  （AM、超精密旋削など）
- ・ＡＩ技術の進化

着眼点

- ✓EV化、エンジン小型化対応
- ✓収益力強化

- ✓加工技術 新分野強化
- ✓AI化、自動化強化

方策

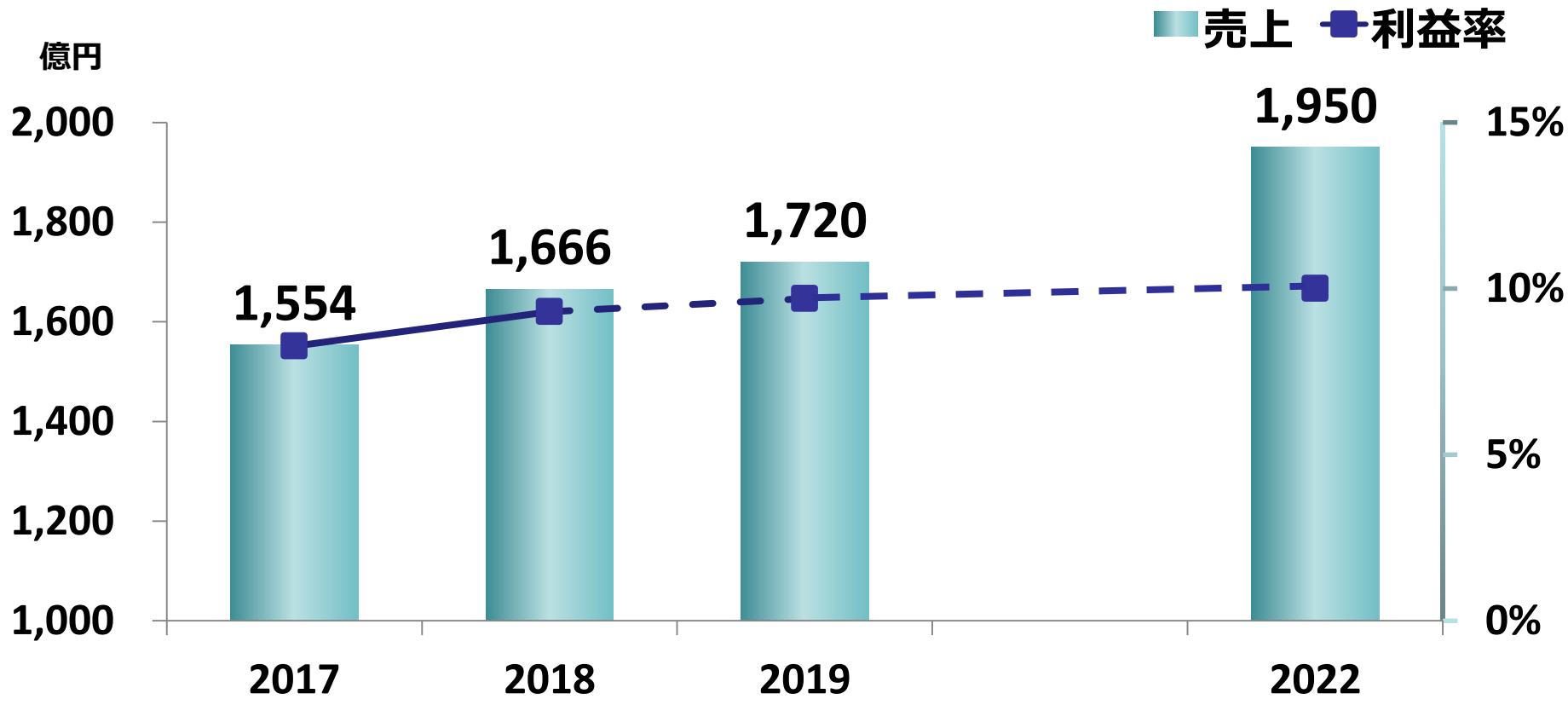
- 自動車ﾊﾟﾜｰﾄﾚｰﾝ ﾄﾚﾝﾄﾞ変化へ対応強化
- 労働人口減少へ対応強化
- 事業構造改革

3-1-5）工作機械・メカトロ 中期事業計画の見通し

2018年度通期の売上・利益見通し

95円/$, 110円/€, 16円/元

上期：研削盤と半導体処理装置が伸び増収増益
下期：貿易摩擦が懸念されるが、引き続き増収増益の見通し

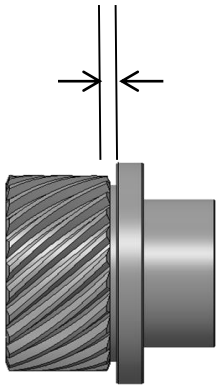


3-1-5）自動車ﾊﾟﾜｰﾄﾚｰﾝ ﾄﾚﾝﾄﾞ変化へ対応強化

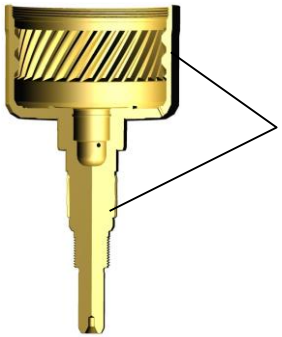
ギヤの小型化と多種生産に対応

生産工程の汎用化

JIMTOF2018 第29回 日本国際工作機械見本市



ミニマム化



一体化

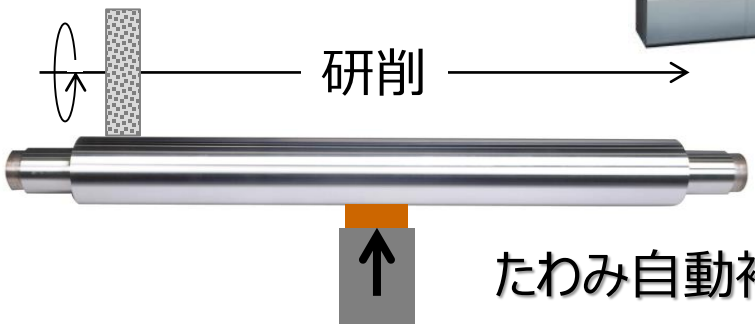
ダウンサイジングエンジンに対応

JIMTOF2018 第29回 日本国際工作機械見本市

コンパクト化

電池ロールの高精度対応

JIMTOF2018 第29回 日本国際工作機械見本市

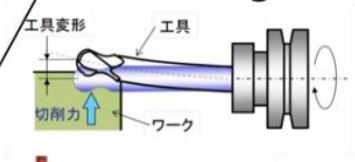


たわみ自動補正

3-1-5）労働人口減少へ対応強化

機械をスマート化

JTEKT SMART Cutting

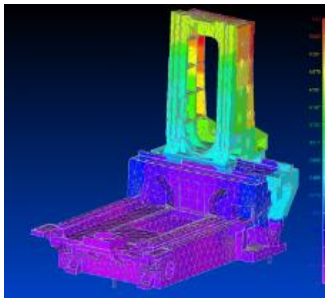


工具寿命管理

AAA

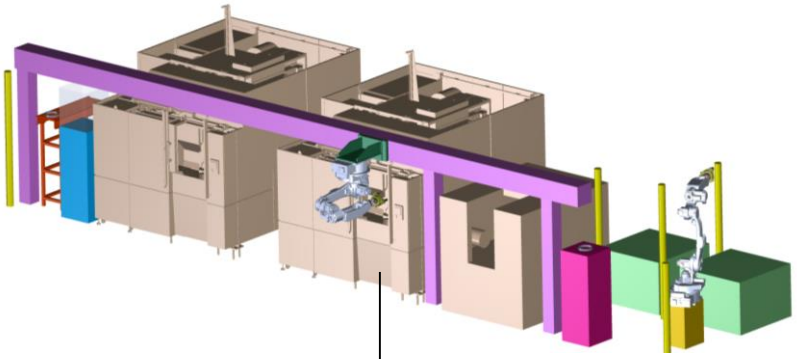
データ収集/蓄積

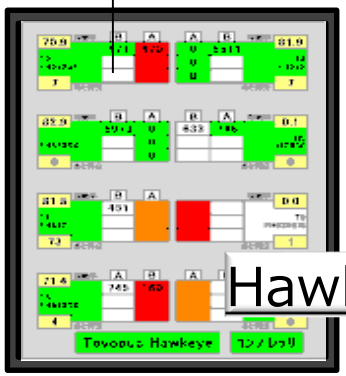
リアルタイム熱変位補正



ベテランに代わる 匠の自動化

スマートファクトリーパートナー





Hawkeye

社内でユースケースを蓄積
⇒成功事例をお客様へ提供

3-1-5）事業構造改革の推進

アフターサービスで基盤づくり

リビルド

中古機

オーバーホール

提　案

販　売

メンテナンス

トレーニングスクール

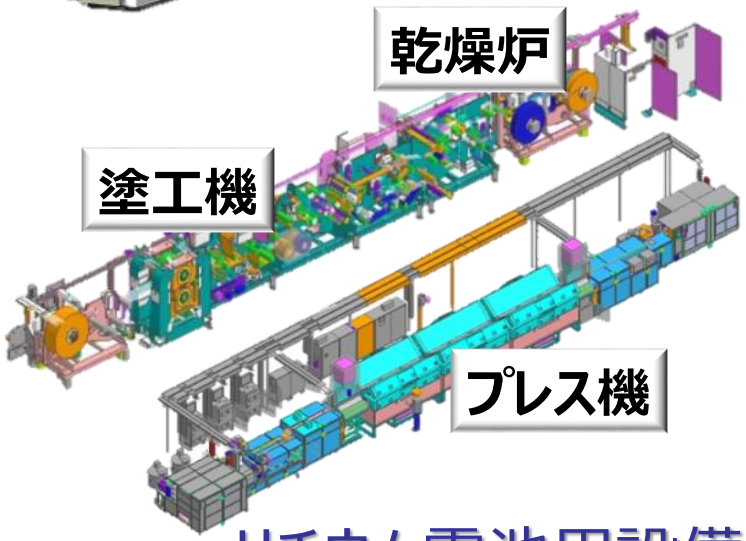
ライフサイクルで
価値をお届け

TOYODAにして好かった！

ニーズ先取りで新分野開拓

5軸マシニングセンタ

航空機部品



乾燥炉

塗工機

プレス機

リチウム電池用設備

6)新規事業の取組み

3-1-6）新規事業の取組み（キャパシタ･J-PAS）

リチウムイオンキャパシタ 生産準備

2019/4～8
東刈谷事業所 ： 2,000セル/月

⇩ 設備移設＋追加

2019/10～
花園工場 ： 40,000セル/月

リチウムイオンキャパシタ生産棟完成予想図
（2019/7/末 竣工予定）

パワーアシストスーツ ISO13482認証取得

サービスロボットや生活支援ロボットの安全規格

国際規格による安全要求充足の証明

⇩

お客様の製品に対する安心と信頼性向上

シリーズ化展開

小型軽量中出力タイプの開発加速

J-PAS®
Jtekt Power Assist Suit

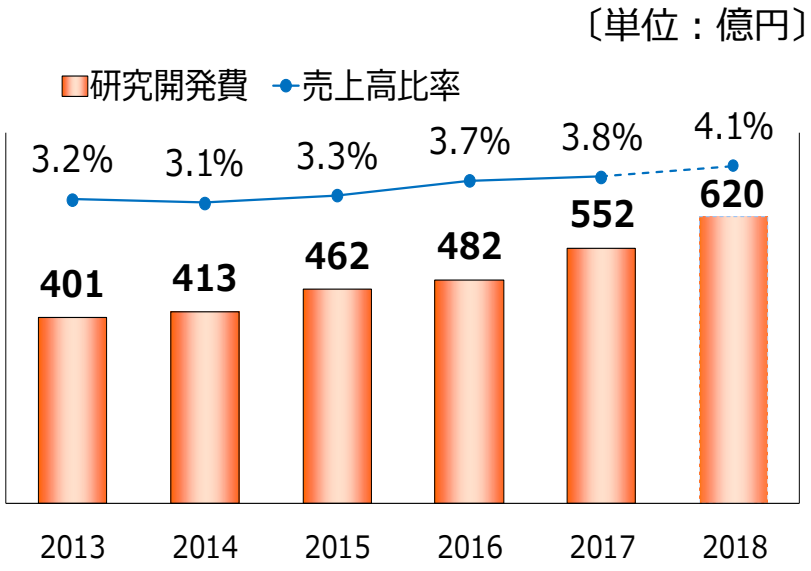
企業価値向上に向けて

～ファンダメンタルズ強化

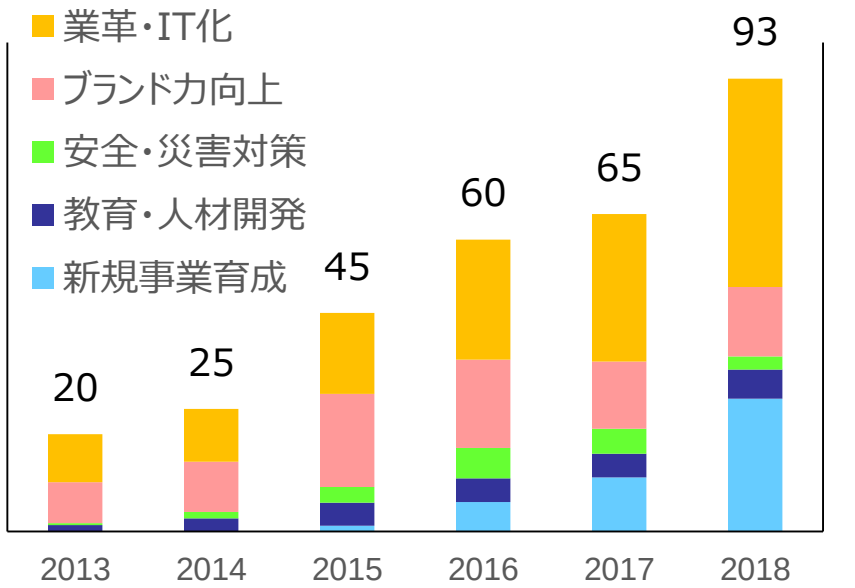
3-2）事業基盤強化への取り組み

足腰強靭化のために積極投資し持続的成長に繋げる

研究開発費推移



事業基盤関連費用



将来の収益基盤を担う新規製品・サービス創造のため
研究開発費の増加傾向は維持し、新規事業育成に厚めに投資

3-2）持続的成長の礎となる経営コンセプト

公益資本主義

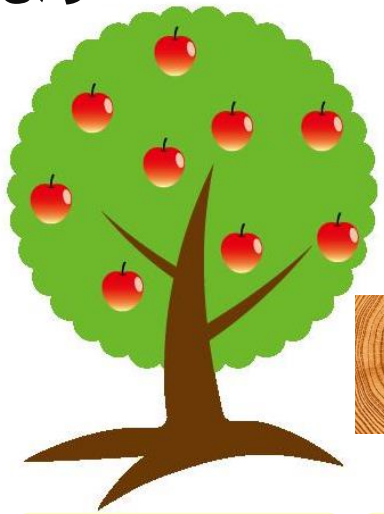
JTEKTの事業活動により創造された価値を、地球環境を含めた各ステークホルダーのベネフィットを考慮して分配します

株主
経営陣
従業員
仕入先
顧客
地球
地域社会

JTEKT
価値創造

年輪経営

様々な投資を栄養分にしてJTEKTは持続的に成長する「いい会社になる」ことを目指します



果実をステークホルダーに分配

ヒトへの投資
事業への投資
自然・社会への投資

3-2）ESGに配慮した取り組み

ESG強化の具体的な施策推進と確実なアウトプット

企業価値向上委員会*

*ボードメンバーを中心に構成

- 専門W/G活動
- 経営会議

推進・進捗モニタリング
（トップダウンでESGにリソーセスを付与）

実績としてのアウトプット

統合報告書（日英版）

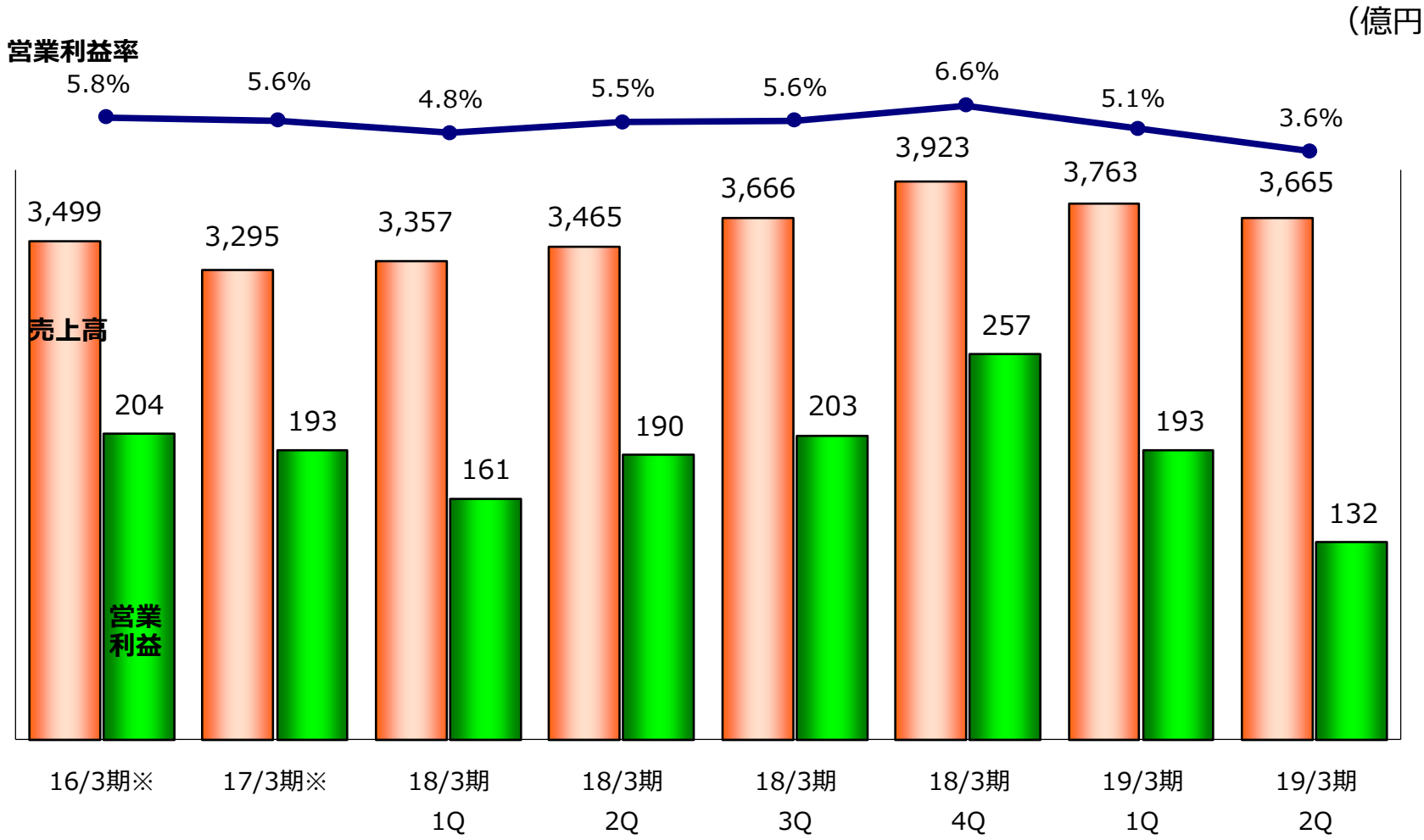
サステナビリティWebサイト（日英版）

推進中タスク

外部ESG格付取得に向け態勢整備

ご清聴ありがとうございました

（参考） 四半期業績推移



USD	120円	108円	111円	111円	113円	108円	109円	111円
EUR	133円	119円	122円	130円	133円	133円	130円	130円

※ 16/3期、17/3期は四半期平均。これ以降のスライドについても同様です。

（参考）事業別売上高予想

(億円)

		18/3期 通期(実績)	19/3期(予想) 上期(実績)	19/3期(予想) 下期(予想)	19/3期(予想) 通期(予想)	増減額	増減率
機械器具部品	ステアリング	7,118	3,698	3,856	7,555	+ 436	+ 6.1%
	駆動	1,454	769	770	1,540	+ 85	+ 5.9%
	軸受	4,223	2,112	2,077	4,190	△ 33	△ 0.8%
	【合計】	12,795	6,580	6,704	13,285	+ 489	+ 3.8%
工作機械他	工作機械	1,600	840	859	1,700	+ 99	+ 6.2%
	その他	15	8	6	15	+ 0	△ 1.5%
	【合計】	1,615	848	866	1,715	+ 99	+ 6.1%
【売上高合計】		14,411	7,429	7,570	15,000	+ 588	+ 4.1%

（参考）法人所在地別売上高予想

(億円)

	18/3期 通期(実績)	19/3期(予想) 上期(実績)	19/3期(予想) 下期(予想)	19/3期(予想) 通期(予想)	増減額	増減率
日本	5,824	2,967	3,017	5,985	+ 160	+ 2.8%
欧州	2,207	1,132	1,187	2,320	+ 112	+ 5.1%
北米	2,982	1,547	1,497	3,045	+ 62	+ 2.1%
豪亜（インド含む）	1,644	883	886	1,770	+ 125	+ 7.7%
中国	1,469	761	848	1,610	+ 140	+ 9.5%
南米他	283	126	143	270	△ 13	△ 4.7%
【売上高合計】	14,411	7,418	7,581	15,000	+ 588	+ 4.1%

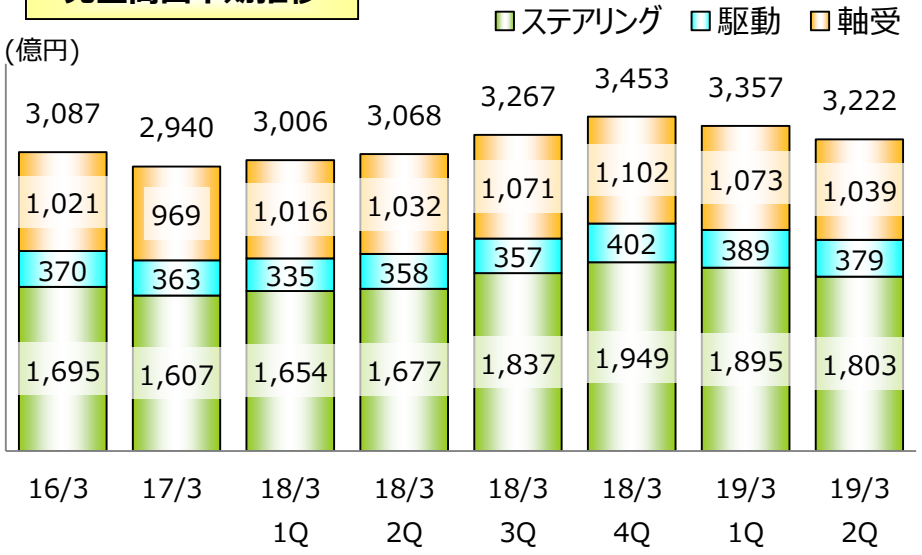
（参考）事業別業績【機械器具部品】

(億円)

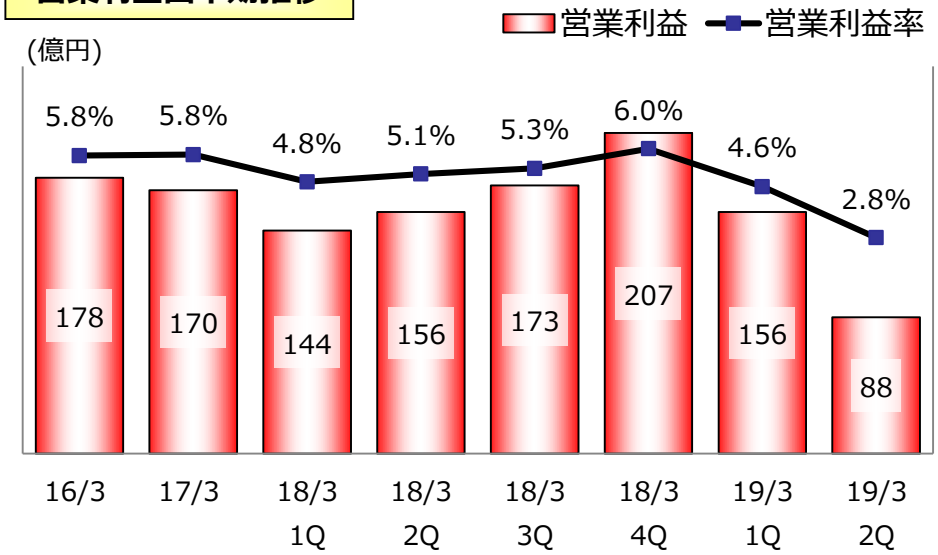
機械器具部品		18/3期 2Q累計	19/3期 2Q累計	増減額	増減率
ステアリング	売上高	3,331	3,698	+ 367	+ 11.0%
駆動	売上高	694	769	+ 75	+ 10.9%
軸受	売上高	2,049	2,112	+ 62	+ 3.1%
【合計】	売上高	6,074	6,580	+ 505	+ 8.3%
	営業利益	301	244	△ 56	△ 18.8%
	利益率	5.0%	3.7%		

※「消去」は省略しております。

売上高四半期推移



営業利益四半期推移



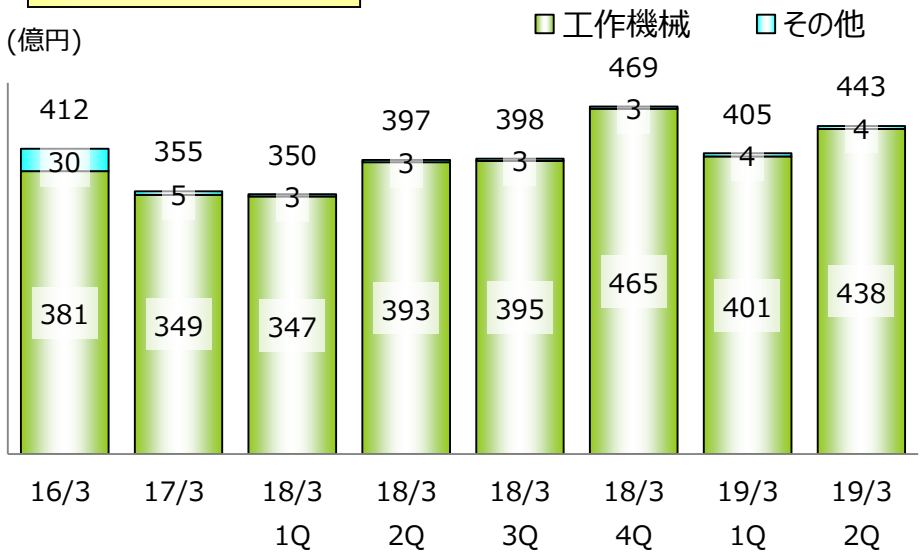
（参考）事業別業績【工作機械 他】

(億円)

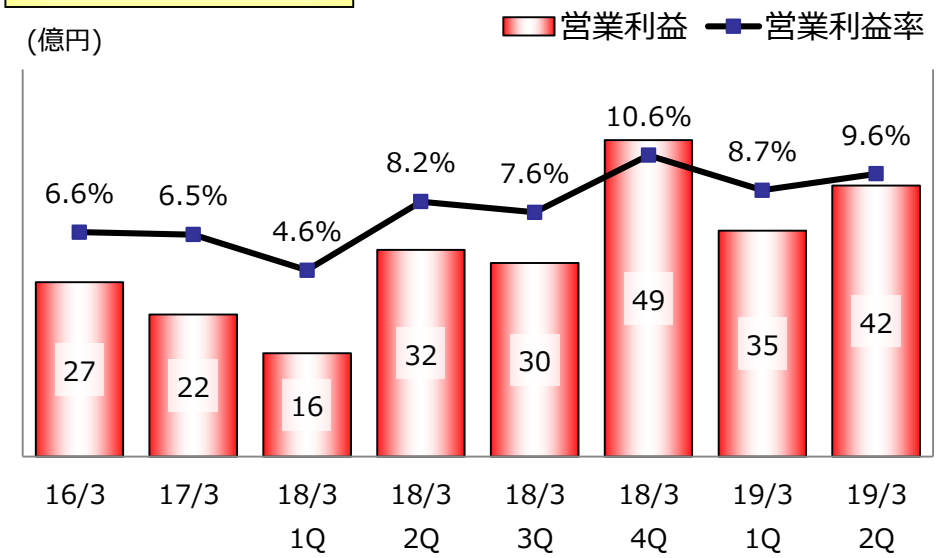
工作機械他		18/3期 2Q累計	19/3期 2Q累計	増減額	増減率
工作機械	売上高	740	840	+ 100	+ 13.5%
その他	売上高	7	8	+ 0	+ 10.0%
【合計】	売上高	748	848	+ 100	+ 13.5%
	営業利益	48	77	+ 29	+ 60.2%
	利益率	6.5%	9.2%		

※「消去」は省略しております。

売上高四半期推移



営業利益四半期推移



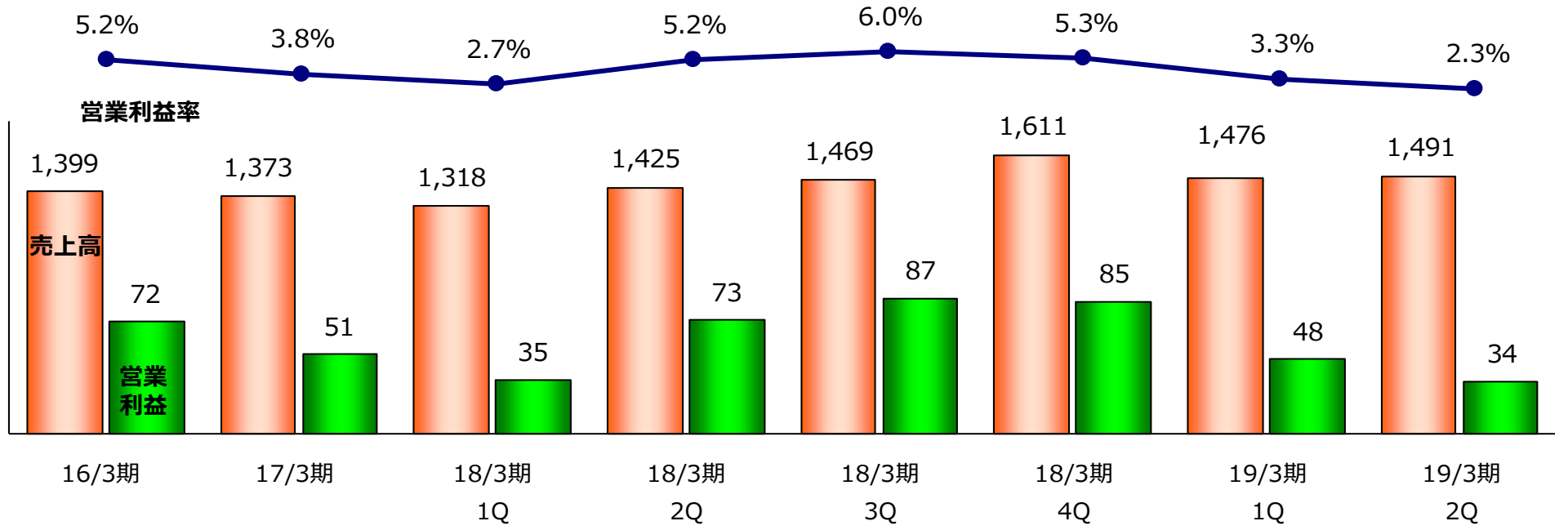
（参考）法人所在地別業績【日本】

（億円）

日　本	18/3期 2Q累計	19/3期 2Q累計	増　減　額	増　減　率
売　上　高	2,743	2,967	+ 223	+ 8.2%
営 業 利 益	109	82	△ 26	△ 24.4%
利　益　率	4.0%	2.8%		

四 半 期 推 移

(億円)



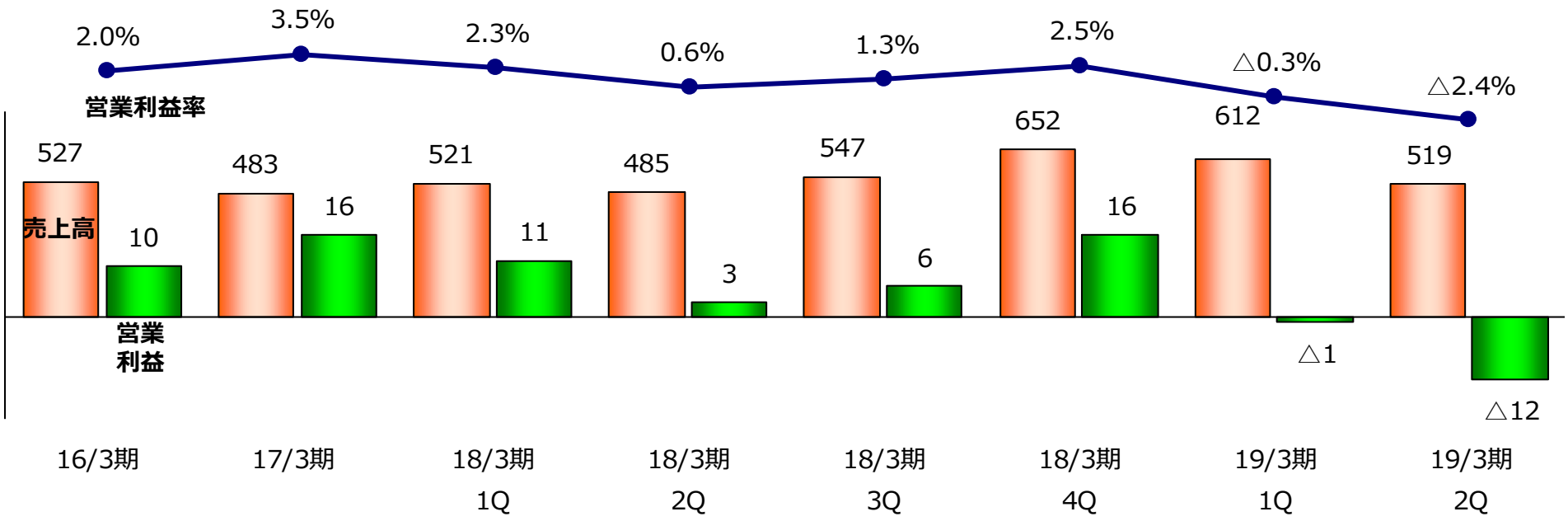
（参考）法人所在地別業績【欧州】

（億円）

欧　　州	18/3期 2Q累計	19/3期 2Q累計	増　減　額	増　減　率
売　上　高	1,006	1,132	＋ 125	＋ 12.5%
営 業 利 益	15	△ 14	△ 29	△ 193.7%
利　益　率	1.5%	△ 1.2%		

四 半 期 推 移

(億円)

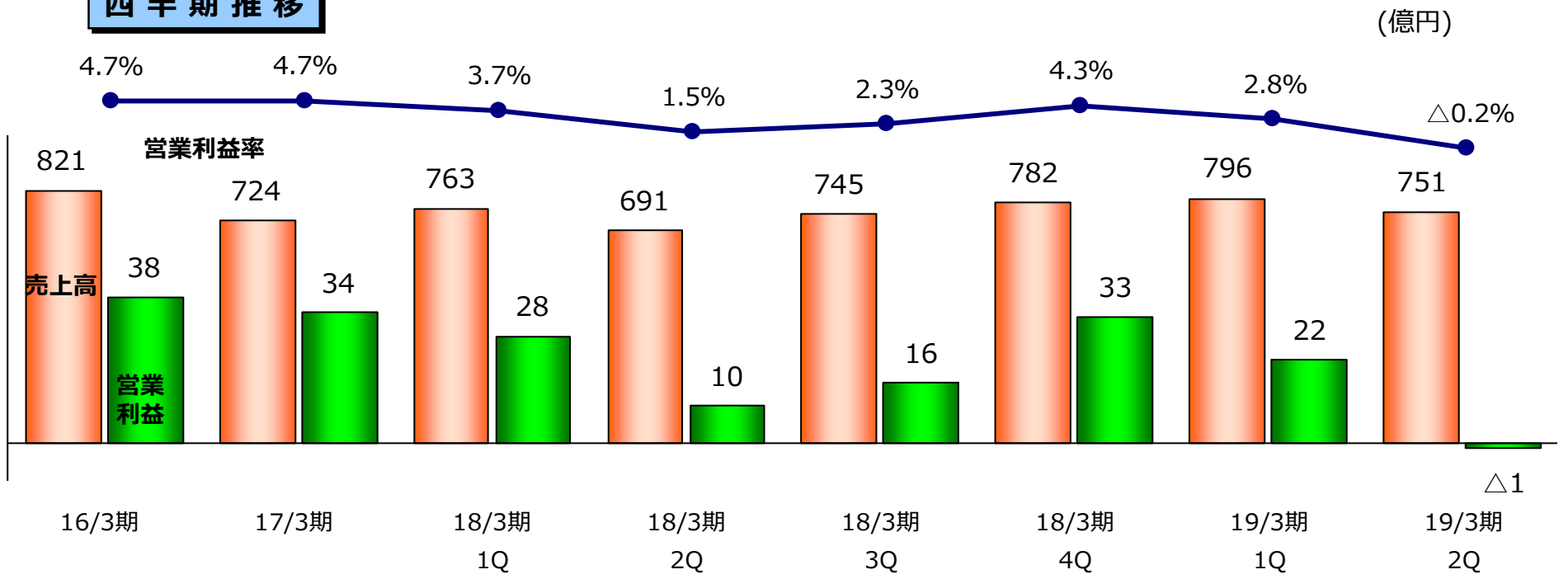


（参考）法人所在地別業績【北米】

（億円）

北　　米	18/3期 2Q累計	19/3期 2Q累計	増　減　額	増　減　率
売　上　高	1,454	1,547	+ 92	+ 6.4%
営 業 利 益	39	21	△ 17	△ 45.8%
利　益　率	2.7%	1.4%		

四 半 期 推 移



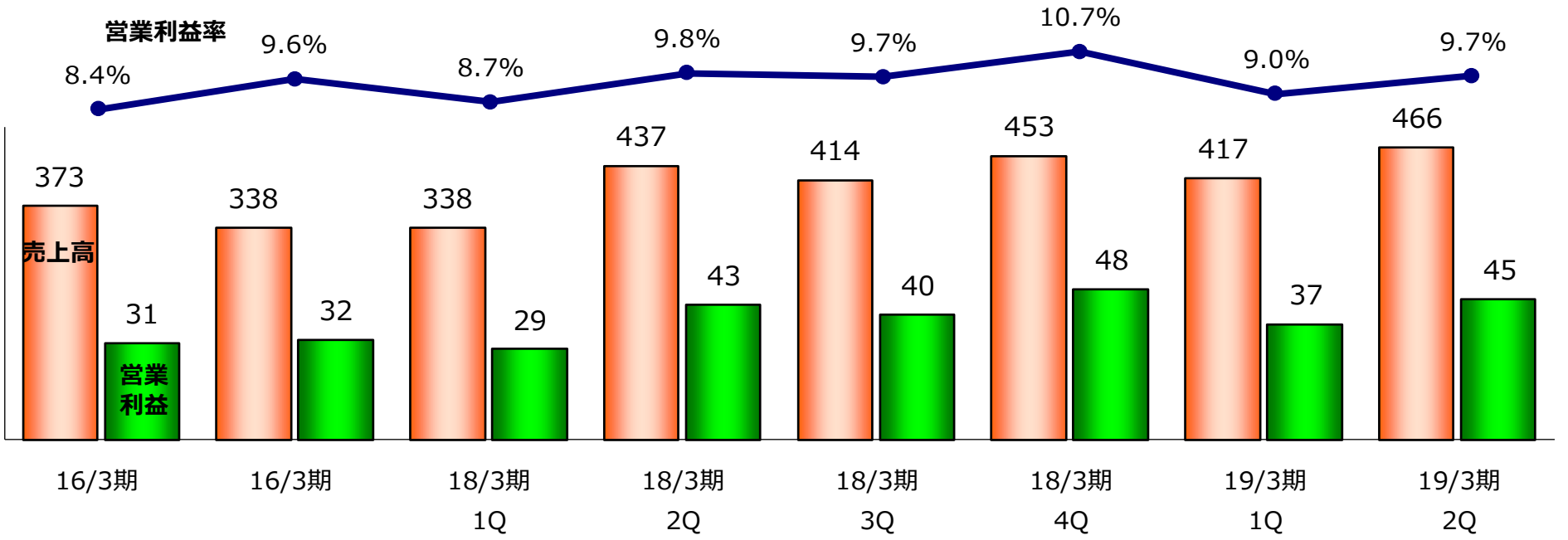
（参考）法人所在地別業績【豪亜(インド含む)】

（億円）

豪亜（インド含む）	18/3期 2Q累計	19/3期 2Q累計	増減額	増減率
売上高	775	883	+ 107	+ 13.9%
営業利益	72	82	+ 10	+ 14.6%
利益率	9.3%	9.4%		

四半期推移

(億円)

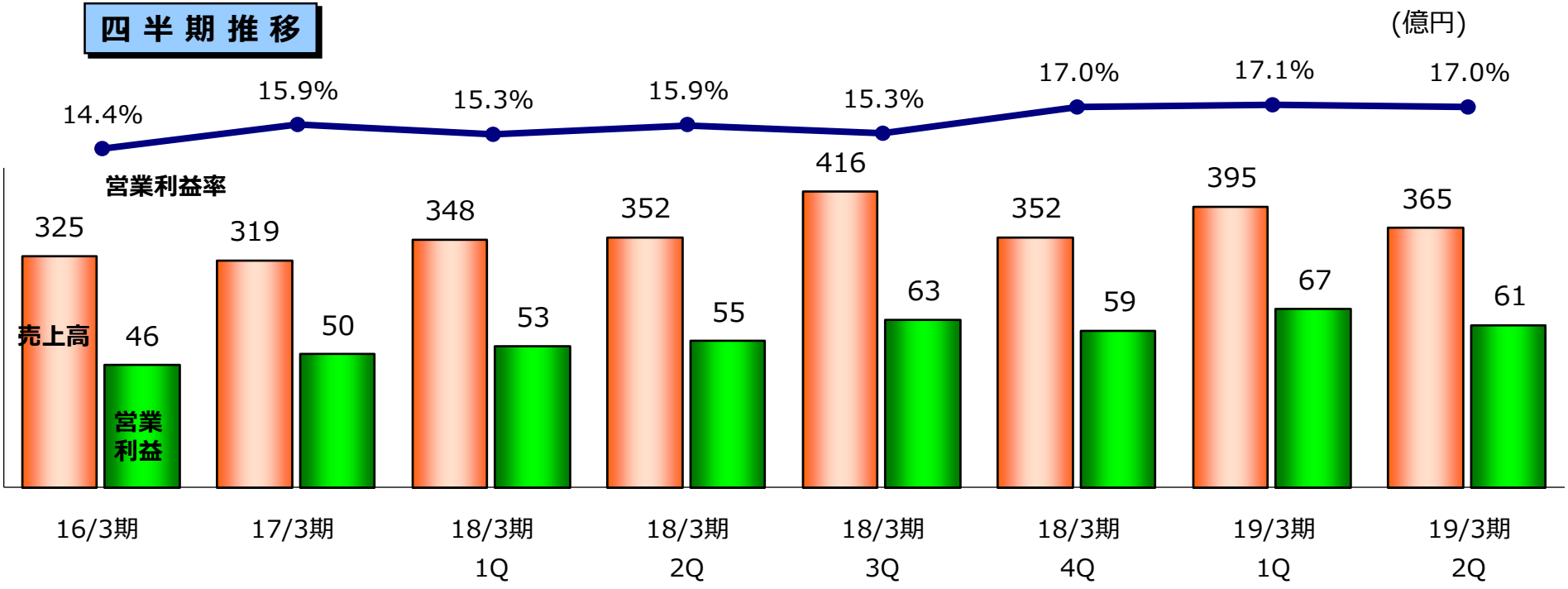


（参考）法人所在地別業績【中国】

（億円）

中　　国	18/3期 2Q累計	19/3期 2Q累計	増　減　額	増　減　率
売　上　高	700	761	+ 60	+ 8.6%
営 業 利 益	109	129	+ 20	+ 18.8%
利　益　率	15.6%	17.0%		

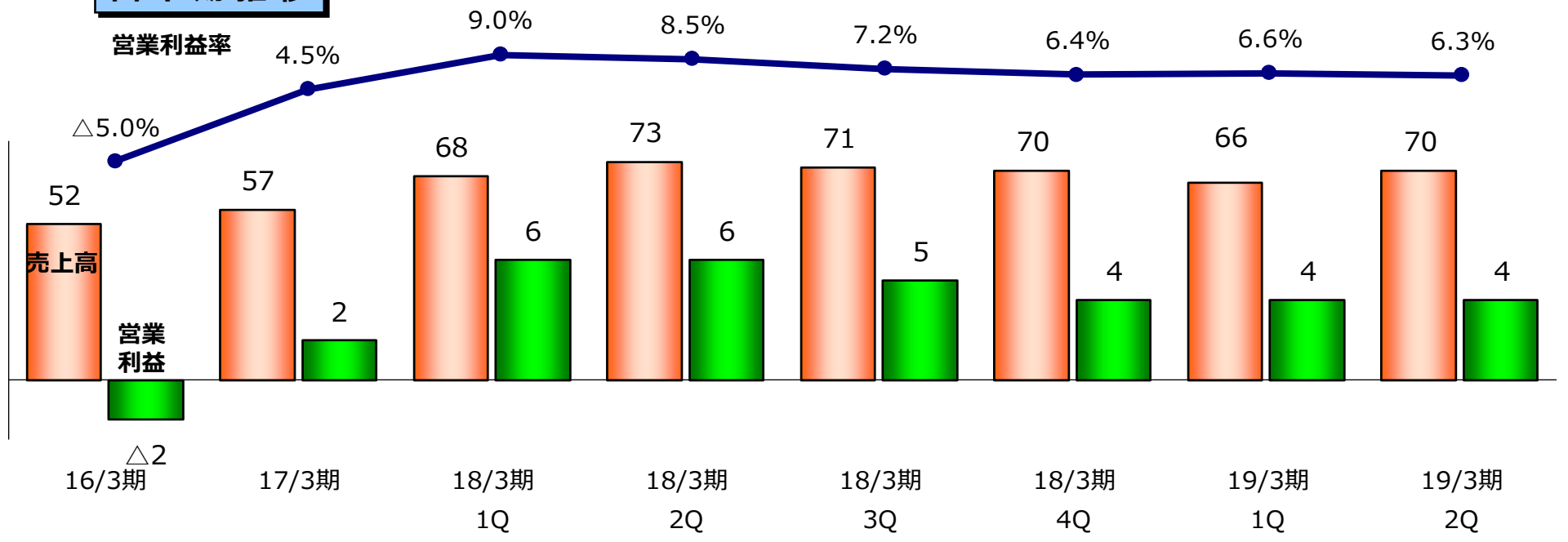
四 半 期 推 移



（参考）法人所在地別業績【南米 他】

（億円）

南 米 他	18/3期 2Q累計	19/3期 2Q累計	増 減 額	増 減 率
売 上 高	141	137	△ 4	△ 3.0%
営 業 利 益	12	8	△ 3	△ 28.2%
利 益 率	8.7%	6.5%		

四 半 期 推 移

(億円)